安息日聖書教科

贖いの計画と聖所の奉仕

Vol. 87, No.1
2011年1月-3月

目次

神	5
悪の起源	10
人類の創造と堕落	15
贖いの計画	20
象徴における贖罪	25
エジプトからの救出	31
地上の神の王国	36
天の聖所のひな型	41
二つの部屋	46
庭	52
祭司職	57
聖所の奉仕における福音	62
キリストの先在	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することを強くお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部(P.O.Box 7240 Roanoke,Virginia 24019-0240,U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.87,No.1

編集&発行:
SDA改革運動日本ミッション

〒368－0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保1607－1

TEL : (0494) 22-0465

FAX: (0494) 26-5059

URL :
http//www.4angels.jp

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト: Good Salt p. 1; Map Resources pp. 4, 53, 76; PhotoDisc p. 76.

Printed in Japan

まえがき

セブンスデー・アドベンチスト改革運動のメンバーとしてわたしたちは真剣に次の事実に関心をもつ少数のうちにいます。「避けるべき地獄と獲得すべき天国とがある。」（各時代の希望下巻 105）

「天への道はたくさんあるのではない。それぞれが自分自身の道を選ぶというわけにいかない。キリストは、『わたしは道であり …… だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない』と言われる（ヨハネ 14:6）。女のすえがへびのかしらを砕くということがエデンで宣告された時に最初の福音が説かれて以来、キリストは道、真理、生命としてかかげられてきた。……キリストはわれわれが神に近づくことのできる唯一の道である。」（同上 145）

世界は「それを見ようともせず、知ろうともしないので」（ヨハネ 14:17）、キリストを受け入れないが、わたしたちはこのお方がわたしたちの心の戸をたたいたときにこのお方を歓迎したので、このお方を知っています（黙示録 3:20）。このお方は御父に次のように祈られました：

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」（ヨハネ 17:3）。

使徒ヨハネによりますと「まことの神」という肩書は、御父と御子の両者に属しています。

「さらに、神の子がきて、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、知っている。そして、わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおるのである。このかたは真実な神であり、永遠のいのちである」（ヨハネ第一 5:20）

わたしたちの救いの利益のためには、このお方について知るだけでは十分ではありません。わたしたちはこのお方を知り、信仰によってこのお方を見て、このお方の「行く所へは、どこへでもついて行」かなければなりません（黙示録 14:4）。

このお方は天の聖所におけるわたしたちの大祭司であられ、この天の聖所にこのお方は「わたしたちのために……みまえに出て下さ」り、「彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」（ヘブル 7:25;　8:1,　2;　9:24）。

ですから、信仰によってわたしたちがこのお方に従い、このお方がこの終わりの時代に天の聖所でなしておられる働きを理解できるように、天の聖所における至聖所の戸が、わたしたちの理解力の目の前に開かれました（黙示録　11:19）。

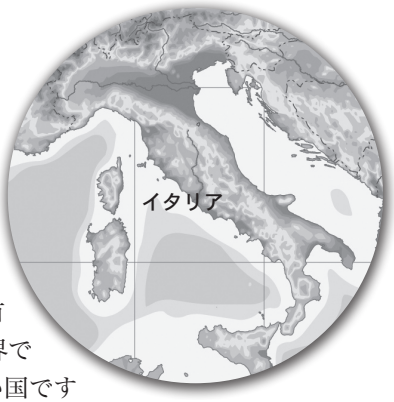
2011 年を通じて、わたしたちは神のみ恵みによって、聖所に関連する贖いの計画を研究します。

この第一四半期に、贖いの計画と聖所の奉仕から始まって、この教科のシリーズ全体が祝福となりますようお祈りします。これらの教科がわたしたちを主にもっと近づけ、このお方の間もない来臨のためにわたしたちを備えるものとなりますように。

–世界総会安息日学校支部–

第一安息日献金

トリエステ本部の改装のために



イタリヤは、ローマを首都とし、その地理的な領域にはバチカンの所領をふところにいだき、世界中でその一千年の歴史、文化、芸術、また自然の嗣業で有名です。およそ 6 千万の人口をもち、世界では 23 番目ヨーロッパでは 5 番目に大きい国です(2009 年現在)。

イタリヤでは、セブンスデー・アドベンチスト改革運動は、1939 年もしくは 1940 年にオーストリアから避難した A. ブルガーがトリエステに改革のメッセージを伝え、A. ムエラーがルシア・ルエシャーと共に、ミラノにいる何人かのアドベンチストの人々と接触したときに、始まりました。

東ヨーロッパが共産主義の下にあり、宗教的な自由を求めて避難した改革運動の兄弟の多くにとって、信徒のグループがあったトリエステは自由の生活の始まりを象徴していた逃れの町でした。

この国に喜ばしい知らせを広めるために奮闘した 70 年が過ぎ、いまやここ最近の 18 年をこえて、アルゼンチン、ブラジル、エクアドル、カザフスタン、モルドバ、ペルー、ルーマニア、そしてウクライナから移民する決心をしてくれた多くの兄弟のおかげで、真理のための光となるべく様々な都市でいくつかの集会を開くことができました。そして 2009 年 9 月以降、わたしたちにはローマにも組織されたグループがあります。

トリエステでは、わたしたちはイタリヤ・フィールドの本部であり、また地元の信徒たちの集会所として使用される場所を購入することができました。この建物の改装がトリエステの信徒たちの資金的な援助と賢明な働きにより可能となりました。今までのところ、集会所だけが完成しています。本部の改装は、わたしたちだけでは成し遂げられません。

イタリヤで第一安息日献金を通してみなさんに援助をお願いするのは今回が初めてです。みなさんの惜しみない献金がここでの主の働きの進展を助けることを確信して、さきだってみなさんにお礼を申し上げるとともに、この国でまだ最後の憐れみのメッセージを聞く必要のある多くの魂のためにお祈りして下さるようお願いいたします。

–イタリヤ・フィールドからの皆さんの兄弟姉妹より–

神

「山がまだ生れず、あなたがまだ地と世界とを造られなかったとき、とこしえからとこしえまで、あなたは神でいらせられる。」（詩篇 90:2）

「神はいつも存在してこられた。このお方は偉大な『わたしは有る』であられる。……このお方は無限であり、偏在しておられる。わたしたちの言葉では、このお方の偉大さと大権を描写することができない。」（医事伝道 92）

推奨文献：　　教会への証 8 巻　255–289

日曜日　*12月26日*

1．実際的な神の啓示

a.　神はわたしたちとどれくらい近くにおられますか（使徒行伝 17:24–27;　エレミヤ 23:24.

b.　出エジプト後、神はどのように人々がこのお方の栄光と品性を見えるような方法で人類の間に住まわれましたか（出エジプト記 25:8;　詩篇 63:2）。神の聖所が立っていた山の名前は何でしたか（詩篇 9:11;　76:2）。

c.　聖所の奉仕は、神と贖いの計画について何を教えていましたか（詩篇 77:13; 68:24）。

「聖所の厳粛な犠牲の儀式、聖所の礼拝、預言者の言葉は神の啓示であった。」（人類のあけぼの下巻 253,　255）

「聖所の奉仕における型によって示されているとうとい真理が理解され、それらのすべての制度の中心となっている本体―世の罪を取り除く神の小羊―が信仰によって把握された。」（教育 42）

d.　ダビデ王はエルサレムの聖所の場所を見上げたとき、どのような慰めを受けましたか（詩篇 122:1; 134:3）。

2. 聖所の目的

a. イスラエルに聖所を与えることによって、神は彼らがだれを、また何を見出すことを望んでおられましたか（詩篇 27:4, 5; 84:1–5, 10）。

「イスラエルは奴隷の境遇から、すべての民にまさって高められ、王の王であられるおかたの特別な宝とされた。神は、彼らに聖なる委託物をゆだねるために、彼らを世から引き離された。神は彼らを律法の保管者とし、彼らによって神ご自身の知識を人々の中に保とうと望まれた。こうして天の光は、暗黒につつまれている世を照らし、すべての民族に偶像礼拝から離れて、生きた神に仕えるようにと訴えられる声が聞かれなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 368）

「神は、イスラエル人について、『彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである』とモーセに命じられた（出エジプト記 25:8）。そして神は聖所の中に、すなわちご自分の民のまん中にお住みになった。イスラエル人が疲れはてて荒野をさまよい歩いていた間じゅう、神の臨在の象徴は彼らとともにあった。」（各時代の希望上巻 7）

b. 神の民は信仰によって、どのような条件に基づいて、このお方の聖所に住むことができましたか（詩篇 15:1–5）。どの保証が彼らのものでしたか（詩篇 91:1–9）。魂にとって動かない錨として、わたしたちにはどの保証がありますか（ヘブル 6:19, 20; 10:19, 20）。

「そこで神は、ご自分の住居をつくらせようとお望みになったイスラエル人に、ご自分のかがやかしい理想の品性を示された。このご品性の型は、神が、シナイ山で律法をおあたえになる際、……かれらに示された。

しかし、彼らは、自分自身では、この理想に達する能力を持っていなかった。シナイ山においての啓示は、彼らの心に、自分自身の足りなさと無力とを深く思わせただけであった。幕屋で行なう犠牲の奉仕を通して、もう一つの教訓、すなわち罪の赦しと、救い主に従うことによって生命にいたる能力とについての教訓が、彼らに教えられなければならなかった。」（教育 28, 29）

「神はエルサレムの宮が、すべての魂にとって可能な高い運命についてのたえまないあかしとなるように計画された。……けがれた商売のそうぞうしさにつつまれていたエルサレムの宮の庭は、肉欲やきよくない思いがはいりこんでけがれている心の宮をそのままあらわしていた。宮を世俗の売る人、買う人からきよめることによって、イエスは、罪のけがれ、すなわち魂を堕落させる世俗的な望み、利己的な欲望、悪習慣などから心をきよめられるご自分の使命を宣言された。」（各時代の希望上巻 186）

3. 神の遍在

a. どなたを通して、神はご自分の僕の一人びとりと共にお住まいになりますか（イザヤ 57:15; 66:1, 2; ヨハネ 14:16, 17, 23）。わたしたちのうちに住まわれるこのお方の条件は何ですか。

「聖霊はキリストの代表者であるが、人間の個性を備えておられないので、これに拘束されない。キリストは、人性の制約を受けておられたので、どこへでもみずから行かれるわけにいかなかった。だから、キリストが父のみもとに行かれて、地上におけるご自分の後継者として聖霊をお送りになることは彼らの利益であった。そうすれば、場所やキリストとの個人的接触などによる特典はだれにもないのであった。みたまによって、救い主はだれにでも近づかれるのであった。この意味において、主は、天にのぼられなかったとした場合よりも一層近く彼らのそばにおられるのであった。」（各時代の希望下巻 153）

「もしわたしたちが神と神がつかわされたイエス・キリストを知るなら、言葉に言い表せない喜びが魂にもたらされる。ああ、わたしたちは神のご臨在を必要としている！聖霊のバプテスマによって、すべての働き人は、神への祈りの呼吸をしているべきである。グループが互いに集まって、特別な助けを、天来の知恵を求めて神に呼び求めるべきである。それは神の民がいかに働きを計画し、考案し、実行するかを知ることができるためである。」（牧師への証 170）

b. 使徒パウロとヨハネは、神のご臨在がわたしたちと共にあるための条件を、どのように提示していますか（コリント第一 3:16, 17; ヨハネ第一 3:24）。

「すべての道徳的な不純物から清められた人の心には、尊い救い主が住まわれ、性質全体を高尚にし、聖化させ、人を聖霊のための宮とする。（同上 387, 388）

「これがテストである。わたしたちの愛の証拠は、愛によって働き魂を清める信仰である。『わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない』（ヨハネ 14:24）。『わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう』（ヨハネ 14:21）。ここに条件に基づいた約束がある。なぜ教会にはっきりとわかる神のご臨在がこれほど少ないかその理由は、このお方が明確に述べてこられた事を行うことに対する無関心であり、彼らが世にキリストのご品性を誤り伝えているからだと、わたしたちは理性的に結論を出さないであろうか。」（エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 1037）

4. 神の現れ

a. 人はだれも父なる神を見た者はいないのですから、わたしたちはキリストの啓示の必要について、何を悟るべきですか（ヨハネ1:18）。

「思想に対する言葉の存在が、見えざる御父に対するキリストの存在である。このお方は御父の表れであり、神の言葉と呼ばれている。神はこの世にご自分の御子をつかわされ、このお方の神性は人性におおわれた。それは人が見えざる神のみかたちに耐えることができるためであった。このお方はご自分のみ言葉、ご品性、み力と大権のうちに、神の性質と特性をお知らせになった。神性が人性を通して、やわらげられ、抑えられた光のうちにひらめいた。このお方は神のご品性の写しである神の律法を体現された。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E．G．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］5巻1131）

b. 心の清い人たちは神を見る、と仰せになったとき、キリストは何を意味しておられましたか（マタイ5:8）。これは実際的な方法において、わたしたちの生活にどのように影響を及ぼすべきですか。

「心の清いものは、その偉大なみ手のわざに、また宇宙を構成している美しい事物の中に創造主を見る。神の書かれたみことばの中に、神のあわれみ、いつくしみ、めぐみの啓示をはっきりと読むのである。知恵のある者や賢い者には隠されている真理の数々が、幼な子にあらわされるのである。この世の知者にはわからない真理の美と尊さが、神のみ心を知り行なおうと、幼な子のように信頼して望むものに、たえず示されていく。わたしたちは、自分が神の性質にあずかる者となることによって、真理を見分けるのである。」（祝福の山32，33）

「心の清い人は神を見るであろう。このお方のご臨在は表されるかもしれないが、それを把握することはできない。この知識はわたしたちにとって、あまりにも不思議である。伝えきれない感情がある。人が言い表せないものである。言葉は無力であり、わたしたちの思想はそれを理解するのにあまりにも足りない。なぜなら、わたしたちの思想を越えて無限にあるからである。

もしわたしたちが神の共労者になるとすれば、わたしたちはこのお方と直接の交わりを持たなければならない。わたしたちは引き受ける万事において、このお方の導きを求めなくてはならない。」（原稿ﾘﾘｰｽ6巻381）

木曜日 *12月30日*

5. 神はどのようなお方か

a. 神のご品性は、どのようなものですか（申命記 32:4; ペテロ第一 1:16）。

b. 神のご品性には、そのほかどのような資質がありますか（出エジプト記 34:6; ヨハネ第一 4:8）。

c. 神のみ座は、どのような原則に基づいて建てられていますか（詩篇 89:14）。神のみ座の周りには何がとりまいていますか（黙示録 4:3）。正義とあわれみがどのように神のご計画において調和するのかを説明しなさい（詩篇 85:10）。

「正義だけが維持されるべきものなのではない。なぜなら、それではみ座の上の約束のにじの栄光が衰えるからである。人は律法の刑罰しか見ることができなくなる。正義も刑罰もなければ、神の統治の安定はない。救いを完璧にするのは、裁きとあわれみが混じり合うことによってである。この二つが混じり合ってわたしたちを導き、世の贖い主とエホバの律法を見るとき、次のように叫ぶのである『あなたの助けは、わたしを大いなる者とされた』（サムエル下 22:36）。」（神の驚くべき恵み 70）

d. 神が天使たちだけでなく、人間も自由意志を持つ者として創造されたという証拠は何ですか（申命記 30:19;　ヨシュア 24:15）。

「神は、強制された服従をお喜びにならない。そして、神はすべての者に自由意志を与えて、彼らが、自発的に神に奉仕できるようになさった。」（人類のあけぼの 上巻 3）

金曜日 *12月31日*

個人的復習問題

1. 神はいますぐにでも、どこに住みたいと望んでおられますか。
2. 神はご自分の「宮」において、ご自分が住まわれる前に、どのような条件を要求なさいますか。
3. わたしたちは聖所に表されている神のご品性を反射していますか。
4. わたしたちはどのように神を見ることができますか。
5. 神のご品性を描写しなさい。あなたは聖書から、男女が自由な道徳的存在者として創造されたことをどのように立証することができますか。

悪の起源

「〔主は70人に言われた、〕『わたしはサタンが電光のように天から落ちるのを見た。』（ルカ　10:18）

「キリストに次いで最も神から栄誉を受け、天の住民の中で最高の権威と栄光を与えられていた者から罪が始まった。」（各時代の大争闘下巻 229）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 1–16
生き残る人々 23–30

日曜日　*1月2日*

1．罪の起源

a.　だれが罪の創始者でしたか（ヨハネ 8:44; ヨハネ第一 3:8）。

「罪は、キリストの次に位し、最大の栄誉を神から受け、天の住民の中で最高の力と栄光を与えられていた者から始まった。「黎明の子」ルシファーは、きよく汚れのない守護のケルブの第一の者であった。彼は、大いなる創造主のみ前に立っていた。そして、永遠の神をめぐり照らすつきない栄光の輝きが、彼の上に宿っていた。」（人類のあけぼの上巻 4）

b.　聖書は、ルシファーのもともとの品性と彼の思いのうちに生じた罪深い考えをどのように描写していますか（エゼキエル 28:15，17）。

c.　ルシファーは自分自身をどのような意味において高めましたか（イザヤ 14:13, 14）。ツロの君という象徴を用いて、エゼキエルはどのようにルシファーの自己称揚を描写しましたか（エゼキエル 28:2）。

「ルシファーはキリストへのしっとに燃えて、ますますかたくなになっていった。神のみ子の至上権に異議を唱え、そのことによって、創造主の知恵と愛とを非難することが、この天使のかしらの目的となっていた。」（同上 5）

2. 天での戦い

a. だれが、神の主権に逆らって、ルシファーの側に立ちましたか（ユダ 6; ペテロ第二 2:4）。

「ルシファーは、神の御前の自分の場所を離れて、天使の間に不満の精神を流布するために出ていった。彼は極秘のうちに働いた。そして、彼はしばらくの間、神を崇敬しているふうを装って、彼の真意を隠していた。彼は、天使たちを支配していた律法に対する疑惑をほのめかし始めた。そして彼は、諸世界の住民にとって、律法は必要であろうが、天使たちは、彼らよりもすぐれたものであり、自分自身の知恵が十分な道しるべとなるから、こうした制限は不必要であると言った。彼らは、神のみ名を汚し得るものではない、その思想もすべて清いのである、神ご自身があやまりを犯すことがありえないと同様に、彼らもあやまちを犯すことはありえないと言うのであった。」（人類のあけぼの上巻 7）

b. ルシファーの反逆の結果とわたしたちがそこから受けるべき警告を描写しなさい（黙示録 12:7–9）。

「天の全天使は、天父の前に呼び出されて、各自の立場を決定させられた。サタンは、キリストが神の前に優先的な立場を占めておられることについて、おくめんもなく不満を口に出した。彼はごうぜんと立ち上がって、自分は神と等しくなければならない、また天父の相談にあずかって、そのみこころを知らしてもらわなくてはならないと言い張った。神はご自分の胸中の目的は、み子にだけ打ち明けるべきもので、サタンはもちろん、天の全家族は、絶対に無条件の服従をしなくてはならない、サタンは天に居る資格がないことを自ら証明したのだとお告げになった。するとサタンは、およそ全天使の半分におよぶ自分の共鳴者たちを指さして、『この者たちがわたしの味方です。この者たちまで追いはらったら、天には穴があきますよ』と、とくいげに叫んだ。そして彼は、キリストの権威と戦い、力には力をもって対し、天における自分の立場を力をもって守る覚悟があると宣言した。」（生き残る人々 28， 29）

「反逆と背教は、わたしたちが呼吸している空気そのもののうちにある。わたしたちは信仰によって自分たちの無力な魂をキリストに委ねないかぎり、それによって影響される。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 394）

3. 攻撃の的となった神の律法

a. 論争の中で、神とその律法についてのルシファーの偽りの主張は何でしたか（ヨハネ 8:44（下句））。

「〔ルシファー〕は、神の言葉を偽りであると言い、神の統治計画を曲解して示した。そして、神が天使たちに律法を課するのは正しくないと言った。また、被造物に従順と服従を求めて、神はただ自己を高めようとしておられるのだと言った。」（人類のあけぼの上巻 14）

「サタンは天から追放される前、神を知っていた。彼は神のご品性を知っていた。しかし、それ以来、彼の努力はそのご品性を偽って伝えるために払われた。宗教は難行苦行、もしくは豪華な光景と華麗な式典の連続であるとほのめかすのは彼である。神の敵によって制定された宗教形態、すなわちカインの捧げ物と同様にキリストのない宗教が多くある。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 3 月 3 日）

b. ルシファーの当初の反逆において、他にどのような罪が表されましたか（イザヤ 14:13）。自己称揚と貪欲をふるうほか、ルシファーは彼の反逆の初期の段階で、ほかにどのような不法を犯しましたか（ヨハネ 8:44（上句））。

「〔ルシファー〕は、自分の目的を達成するために、詭弁と欺瞞を用いて、巧妙な論陣を張った。彼の欺瞞の力は非常に大きかった。彼は、欺瞞の外とうに身を隠して、自分の側を有利に導いていった。彼の行動は、すべて、神秘で包まれていたので、天使たちは、彼の働きの真の性質を見破ることはむずかしかった。」（人類のあけぼの上巻 13）

c. わたしたちが神の律法とご品性に対するサタンの告発によって欺かれる必要のないことを説明しなさい（詩篇 119:7–12, 18）。

「神の律法が、唯一の道徳的完全の真の標準である。この律法は実際的に、キリストの生涯において具体化された。このお方自身が、『わたしがわたしの父のいましめを守った』と仰せになる（ヨハネ 15:10）。この服従に足りないものは何も神のみ言葉の要求を満たすことができない。『「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである』（ヨハネ第一 2:6）。これは不可能ですと嘆願することはできない。なぜなら、わたしたちには次の保証があるからである、『わたしの恵みはあなたに対して十分である』（コリント第二 12:9）。」（清められた生活 80, 81）

4. 天から追放される

a. サタンとその使たちが天から追放されたとき、どこに追放されましたか（イザヤ 14:12; 黙示録 12:9）。サタンはなぜ滅ぼされずに追放されたのですか。

「サタンをこれ以上天にとどめておくべきではないと決定されたときでさえ、無限の知恵にいます神は、サタンを滅ぼされなかった。ただ愛の奉仕だけが神に受け入れられるのであるから、神に対する被造物の忠誠は、神の公義と慈愛とに対する確信に基づかねばならない。天と他世界の住民たちは、まだ罪の本性とその結果を理解する用意ができていなかったので、サタンを滅ぼしてしまったら、神の正義とあわれみとを認めることができなかったであろう。もしサタンの存在がたちまち抹殺されてしまったら、彼らは愛よりもむしろ恐怖から神に仕えたであろう。欺瞞者の感化を完全に滅ぼすことも、反逆の精神を根絶することもできなかったであろう。悪は十分に成熟させねばならなかった。永遠にわたる全宇宙の幸福のために、サタンの原則を十分に発揮させてみる必要があった。それは、すべての被造物が、神の統治に対するサタンの非難の真相を知り、神の公義とあわれみ、また神の律法の不変性が、永遠に疑問の余地なきものとなるためであった。

サタンの反逆は、きたるべきすべての時代にわたって、全宇宙にとって一つの教訓、すなわち罪の本性とその恐ろしい結果についての永久的なあかしとなるのであった。サタンの支配がもたらすもの、人と天使たちに及ぼすその影響は、神の権威を無視することがどんな結果になるかを示すのであった。それはまた、神のお造りになったすべての被造物の幸福は、神の統治及びその律法の存在と切っても切れない関係にあるということを証明するのであった。」（各時代の大争闘下巻 236）

b. サタンは地上に投げ落とされて以来、どのような主張をし、どのような肩書を不正に維持してきましたか（ルカ 4:6; ヨハネ 14:30）。

「サタンが、この世の王国と栄華は自分の手に渡されているのだから、自分は望むままにだれにでもこれを与えることができるのだと宣言したとき、彼の言ったことは一部分しか真実でなく、また彼は自分自身の欺瞞の目的に役立てるためにそれを宣言したのだった。サタンの主権はアダムから横取りしたものであったが、アダムは創造主の代理者だった。アダムの支配は独自の支配ではなかった。地は神のもので、神は万物をみ子におまかせになっていた。アダムはキリストの支配下にあって統治するのであった。アダムが統治権をサタンの手に売り渡したときにも、キリストは依然として正当な王であられた。」（各時代の希望上巻 143, 144）

木曜日 *1月6日*

5. この世におけるサタンの感化力

a. サタンの統治における霊的また社会的雰囲気を描写するのに、聖書はどのような名を用いていますか（マタイ 16:18; 23:15; ペテロ第二 2:4（上句））。

b. サタンとその使が地に投げ落とされて以来、彼らが常に携わってきた仕事は何ですか（黙示録 12:9）。黄泉の力がどのように働くかをしめす一例を挙げなさい（ルカ 11:24–26）。

「サタンは堕落して以来、欺瞞によって働いてきた。」（祝福の山 40）

「〔サタン〕の精神は、今、不従順の子らを支配している。サタンと同じように、彼らは神の律法の拘束を打破しようとし、律法に違反することによって人々に自由を約束する。」（各時代の大争闘下巻 237）

c. 光と闇の間の戦争の結果は、何ですか（黙示録　17:14; 19:11–16）。

「神の律法に対する戦いは、天に始まったが、それは世の終りまで続くであろう。どの人もみな試みられる。全世界の人々が、従うか従わないかの問題を決定しなければならない。すべての人が、神の律法か人の律法かをえらばせられるのである。……

それから終りが来る。神はご自分の律法の正しさを立証し、その民を救われる。サタンと、サタンに加わった者たちはみな断たれるのである。」（各時代の希望下巻 290，291）

金曜日 *1月7日*

個人的な復習問題

1. どのように「光を担う者」ルシファーは、「背教者」サタンになりましたか。
2. 彼は、どのように天使たちの間に不満を撒きに行きましたか。
3. どの罪をもって、彼は神に敵対する反逆を始めましたか。
4. サタンが天から追放されたときは、なぜ彼を滅ぼすのに時期尚早だったのですか。
5. サタンがこの地上に閉じ込められて後も、なぜ彼の反逆は続いたのですか。

人類の創造と堕落

「このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。」（ローマ 5:12）

「サタンは事がうまくいったのをみて、こおどりして喜んだ。今や彼は女を誘惑して、神に対する不信を抱かせ、神の知恵に疑いをもたせ、神の全知全能の計画を見抜こうとさせた。サタンはまたエバを通して、アダムもたおした。」（生き残る人々 52）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 17–52

日曜日　*1月9日*

1．人類の創造

a.　人類家族を創造された神のご目的は何でしたか（創世記 1:26–28; ヨハネ 14:3）。

「神はご自身の栄光のために人間を創造された。それはテストと試みの後に、人類家族が天の家族と一つになるためであった。人類がご自分の一つ一つのみ言葉に従順であることを示すならば、彼らによって天の家族を埋め合わせるのが神のご計画であった。」（神の驚くべき恵み 344）

b.　最初の父祖は神のみかたちに創造されたにもかかわらず、なぜ彼らはテストされなければならなかったのですか（創世記 1:27; イザヤ 43:7）。

「アダムは、忠実な天使たちのように、従順であるか、あるいは不従順であるかを調べるためにテストされるのであった。もし彼がこのテストに耐えるならば、彼の子らに対する彼の教えはただ忠誠のみであったことであろう。彼の思いと思想は、神の思いと思想であったことであろう。」（同上）

2. 誘惑と堕落

a. 神はアダムとエバに、彼らがだれを信じるか―創造主なる神か、あるいは欺瞞者サタンか―をごらんになるために、どのようなやさしいテストをお与えになりましたか（創世記 2:16, 17; 3:1–5）。

「天使と同様に、エデンの住人には、試験期間が与えられていた。彼らの幸福な地位は、創造主の律法に忠実に従うという条件だけによって保つことができた。彼らは、服従して生きるか、それとも服従しないで滅びるかのどちらかであった。神は、彼らを豊かな祝福を享受する者とされた。しかし、もし彼らが神の意志に逆らうならば、罪を犯した天使たちを許されなかったかたは、彼らをも許すことはおできにならなかった。罪は神の賜物を取り去り、彼らに悲惨と破滅をもたらすのであった。

天使たちは、サタンの策略に注意するように、彼らに警告した。それは、サタンが彼らをわなに陥れようとしてたゆまず努力するからであった。彼らが神に服従しているかぎり、サタンは、彼らを傷つけることはできなかった。なぜなら、もし必要とあれば、天のすべての天使が、彼らを助けるためにつかわされるからであった。もし彼らがサタンの最初の誘惑を断固として退けたならば、彼らは、天使たちと同様に安全であったことであろう。しかし、一度誘惑に負けるならば、彼らの性質は堕落してしまい、とうてい自分だけではサタンに抵抗する力も抵抗する気持ちも持てなくなってしまうのであった。」（人類のあけぼの上巻 38, 39）

b. アダムとエバはサタンを信じ、従うことによって神の律法のどの戒めを犯しましたか（出エジプト記 20:3）。彼らの違反は、彼らのすべての子孫にどのように影響しましたか（ローマ 3:23; 5:12, 19）。

「御使たちは、罪の創始者であるサタンが、神のご命令の上に自分自身の考えを置き、その欺瞞的な理論を通して、神の律法を無効にしようとしたとき、どれほど注意して彼の言葉を聞いたことであろう！彼らは、聖なる夫婦が誘惑者によって惑わされ、彼のわざに屈するかどうか見るために、どれほど不安な気持ちで待っていたことであろう。彼らは、聖なる夫婦が自分の信仰と愛情を御父と御子からサタンに移してしまうのであろうか、と自問した。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1890 年 5 月 12 日）

「アダムは純潔で罪のない性質を授けられていた。しかし、彼は敵のほのめかしに耳を傾けたために堕落した。彼の子孫は堕落した。ひとりの人の不服従によって、多くの人が罪人になった。」（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1898 年 6 月 2 日）

3. 価値のない人工的な覆い

a. 彼らの目が開かれるや否や、アダムとエバは何を悟りましたか。そして彼らは何をしましたか（創世記 3:7）。

「これまで彼らの心に宿っていた愛と平和はなくなり、その代わりに罪の意識と未来への恐怖と魂の空虚さとを感じた。彼らを取りまいていた光の衣は消えてしまった。それで、彼らは、その代わりに衣服をつくろうとした。彼らは、何も着ないで、神と天使たちに会うことはできなかった。」（人類のあけぼの上巻 45）

b. 堕落以来の人類の霊的な状態を描写しなさい（伝道の書 7:20; ローマ 3:10–18）。

「罪を通して人間機能の全体は、混乱させられた。思いはゆがめられ、想像力は堕落した。罪は魂の機能を堕落させた。外からの誘惑は、心のうちに反応する琴線を見出し、足は知らずに悪へ向かうのである。」（マラナタ 91）

c. それにもかかわらず、どれほど多くの人々が、なお自分たちの霊的な裸を覆おうと試みていますか（箴言 30:12; ルカ 18:9–12）。

「神が人類を最初に聖なるエデンに置かれたとき、彼らが着ていたのは純潔という白い衣であった。……この光の衣は、天与の純潔という霊的な着衣の象徴であった。もし彼らがずっと神に真実を尽くしていたら、彼らはいつまでもその光に包まれていたはずであった。しかし罪が侵入したとき神とのつながりは断たれ、それまで彼らを取り囲んでいた光は消え去った。彼らは裸となった自分の身を恥じて、いちじくの葉をぬい合わせておおいを作り、それを天の衣の代わりにしようとした。

これは、アダムとエバが神にそむいて以来、神の律法の違反者がつねに試みてきたことである。彼らは違反によってあらわれた裸をおおうために、いちじくの葉をぬい合わせて着た。彼らは自分でくふうした衣を着てきた。彼らは自分のわざによって罪をおおい、神に受け入れられようとしてきた。」（キリストの実物教訓 290, 291）

4. 自己義認

a. アダムが死刑宣告を受ける前に、神はアダムにどの質問をお尋ねになりましたか（創世記 3:9–11）。

b. アダムとエバは、どのように自らを正当化（義認）しようとしましたか（創世記 3:12, 13）。

「アダムは、自分の罪を否定し、言いわけをすることもできなかった。彼は、悔い改めの精神をあらわす代わりに、彼の妻を非難し、ひいては、神ご自身の責任にした。『わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです』（創世記 3:12）。エバを愛するがために、神に喜ばれることも、楽園の彼の家も歓喜に満ちた永遠の命をも捨てた彼が、罪を犯した今は、罪の責任を妻ばかりでなく、創造主ご自身にまで負わせようとした。罪の力は、これほどに恐ろしいのである。

女が『あなたは、なんということをしたのです』と問われたとき、彼女は、『へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました』と答えた（同 3:13）。『どうしてあなたは、へびをお造りになったのですか。へびがエデンにはいるのをどうしてお許しになったのですか』という質問が彼女の言いわけの真意であった。このようにして、彼女もアダムと同じく、彼らの堕落の責任を神のせいにした。」（人類のあけぼの上巻 46）

c. 自分たちの罪に対して目が開かれたとき、罪深い男女の傾向は何ですか（ローマ 2:1–3）。

「自己を義とする精神は、偽りの父から始まった。この精神は、われわれの祖先がサタンの力に屈服すると直ちにあらわれた。そして、それ以来、アダムのすべてのむすこ、娘はこの精神をあらわしてきた。けんそんに自分の罪を告白するかわりに、彼らは他の人や、環境、あるいは神を非難して、自分を弁護しようとする。彼らは、神の祝福さえ、神に対するつぶやきの理由にするのである。」（同上 46, 47）

木曜日 *1月13日*

5. 宣告

a. 神はわたしたちの最初の父祖と地に対して、どのような宣告を下されましたか（創世記 3:16–19）。

「アダムが、天の神に忠誠をつくしていたかぎり、自然全体は彼に従っていた。ところが、彼が神の律法にそむいたとき、下等な動物は、彼の統治にそむいた。こうして、主は、その大きな慈悲をもって、神の律法の神聖さを人間に示し、彼ら自身の体験によって、ささいなことにおいても、律法の無視がどんなに危険であるかを悟るようにされた。……

「それを取って食べると、きっと死ぬであろう」（創世記 2:17）という祖先に与えられた警告は、彼らが禁じられた木の実を食べたその日に死ぬという意味ではなかった。しかし、その日に、取り消すことのできない宣告が発せられるということであった。不死は服従の条件のもとに約束された。罪を犯せば、永遠の命を失うのであった。その日に、彼らは死ぬ運命に定められるのであった。」（人類のあけぼの上巻 49）

b. 堕落によって、人類は何を失いましたか（創世記 3:22–24）。

「もし人間が、堕落後もいのちの木に近づくことが許されたとすれば、人間は永遠に生きることになり、こうして罪は永遠に続いたであろう。しかし、ケルビムと炎のつるぎが、『命の木の道』を守っていたので、アダムの家族の者はだれひとり、そのさくを越えて、いのちを与える実を食べることができなかった（創世記 3:24）。だから永遠に生きる罪人はいないのである。」（各時代の大争闘下巻 281）

金曜日 *1月14日*

個人的な復習問題

1. **わたしたちはどの条件に基づいて、天から追放された者たちの場所を占める特権を得ますか。**
2. **わたしたちの最初の父祖は、どのようにテストされましたか。**
3. **6000 年以上、男女は何をしようと試みてきましたか。**
4. **なぜ悪事を行うことを正当化（自己義認）することは、不信や不服従よりも大きな罪なのですか。**
5. **アダムの違反により、ただちにどのような結果がありましたか。**

贖いの計画

「人の子がきたのも、……多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである。」（マルコ 10:45）

「罪が生じるや否や、救い主がおられた。……アダムが罪を犯すや否や、神の御子がご自分を人類のための保証として差し出されたのである。」（信仰によってわたしは生きる 75）

推奨文献：　初代文集 260–266
人類のあけぼの上巻 53–64

日曜日　*1月16日*

1．わたしたちのための神のみ摂理

a.　堕落した人類には、いつから救い主がおられますか（黙示録　13:8）。神は、どのようにキリストが世のはじめから彼らのために死なれたとみなすことがおできになるのですか（ローマ 4:17（下句））。

「救いの計画は、地球が創造される前にたてられていた。」（人類のあけぼの上巻 54）

b.　なぜ神の御子を除いては、だれも堕落した人類を贖うことができないのですか（イザヤ 43:11; ヨハネ 14:6; 使徒行伝 4:12）。

「神の律法は、神ご自身と同様に神聖であるから、罪の贖いをすることができるのは、神と等しいかただけであった。罪を犯した人間を律法ののろいから贖い、再び、天と調和させることができるものは、キリストのほかになかった。」（同上 53）

c.　キリストはなぜわたしたちのために死ななければならなかったのですか（ヘブル 9:22; エペソ 1:7）。

「多くの人々にとって、なぜ旧約の時代にそれほど多くの犠牲の捧げ物が要求されたのか、なぜそれほど多くの血を流した犠牲が祭壇におかれたのかは神秘であった。……一つ一つの血を流した犠牲は、『世の罪を取り除く神の小羊』を象徴していた（ヨハネ 1:29）。」（わたしたちの高い召し 47）

2. 発表された救いの計画

a. サタンに下された宣告を聞いたときに、わたしたちの最初の父祖は何を理解しましたか（創世記 3:15）。

「神は、『わたしは恨み〔敵意―英語訳〕をおく』と宣言された（創世記 3:15）。この恨みは、人間が生まれながらに持っているものではない。人間は、神の律法を犯したときに、その性質は邪悪となり、サタンに敵対するのでなく、協調するようになった。罪人と罪の張本人との間には、当然、なんの恨み（敵意）もない。両方とも、背信によって、邪悪になった。背信者は、他の人々を自分の模範に従うよう勧誘して、同情と支持を得るまでは安んじない。こういうわけで、堕落した天使たちと悪人たちとは、絶望的なつながりで結ばれた。」（各時代の大争闘下巻 243, 244）

「〔創世記 3:15 引用〕。アダムとエバが聞いているところで語られたこの宣告は、彼らにとっては、約束であった。そこには、人間とサタンとの戦いが予告されていたが、この大敵の力がついに砕かれることが宣告されていた。」（人類のあけぼの上巻 58）

b. 救いの計画は何の上に立てられていましたか（ヨハネ 3:16）。

「変化が起こるべき時が来ていた。さもなければ神が創造された存在の心から完全に神のみかたちが消し去られたことであろう。全天は非常な関心をもって神の動きを見守っていた。このお方はもう一度怒りを表されるであろうか。このお方は世界を火で滅ぼされるであろうか。御使たちは、正義の一撃を加えるべき時が来たと思った。そのとき、見よ、不思議に思っていた彼らの目の前で、救いの計画が明らかにされた。天よ、驚け、地よ、驚愕せよ！神は世を救うために、ご自分のひとり子を世につかわされた！驚くべき恵み！『わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。』（ヨハネ第一 4:10）。

神は世を裁くためにご自分の御子をつかわされたのではなく、このお方を通して世が救われるためであった。憤激した正義は速やかに人間の有罪宣告を下すこともできた。しかし、愛と憐れみのうちに、神はもう一度人間に機会を下さった。」（エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 569, 570）

c. 救いの計画にあずかることのできるのは、何人ですか（ヨハネ第一 2:2; 黙示録 22:17; ペテロ第二 3:9）。

3. 神の予知

a. 詩篇記者は、すべての人類を神が予知しておられる現実を、どのように伝えていますか（詩篇 139:1–4）。

b. 使徒パウロが「主は自分の者たちを知る」と述べたとき、何を意味していましたか（テモテ第二 2:19）。例を挙げなさい（エレミヤ 1:5; ガラテヤ 1:15）。

c. 神はエサウとヤコブに関するご自分の予知を、どのように表されましたか（創世記 25:23）。

「神ははじめから結果をご存知である。神は、ヤコブとエサウが生れる前から、ふたりがどんな性格の人間になるかを知っておられた。エサウが神に従う気持のない人間になることも、神にはわかっていた。リベカが悩んで神に祈ったときに神はこれに答えて、彼女にふたりの子供が生れ、兄は弟に仕えるようになるとお教えになった。彼女の前にはふたりのむすこたちの将来の歴史、すなわち彼らが二つの国民となり、その一つの民は他の民よりも強くなる、すなわち兄は弟に仕えるということが示された。当時、長子には、家族の中で他のだれにも与えられない祝福と特権が与えられていた。」（生き残る人々 106）

d. どのような意味において、すべての人は、救いのためにあらかじめ定められていますか（エペソ 1:3–6, 11, 12）。それでは、なぜ失われる人があるのですか（ヨハネ 3:18, 36; 6:37）。

「神はすべての人が救われるようにと望んでおられる。なぜなら、人間の贖い代を払うためにご自分の御子をお与えになることによって、豊かな備えがなされたからである。滅びる者が滅びるのは、キリスト・イエスを通して神の子として養子にされることを拒むからである。人間の誇りが救いの備えを受け入れることを妨害する。しかし、人間の功績では、神のみ前に出ることはできない。人が神に受け入れられるようにするのは、キリストのみ名を信じる信仰を通して与えられるキリストの恵みである。行いや幸福な感情の高揚を人が神に選ばれたという証拠としてより頼むわけにはいかない。なぜなら、選民はキリストを通して選ばれるからである。……

悔い改めた罪人が、自分の罪と無価値さを自覚し、自分が刑罰に価することを悟りながらも、キリストの憐れみと愛により頼み、キリストのみ許に来るとき、彼は退けられることがない。」（わたしたちの高い召し 78）

4. 継続する責任

a. サタンの王国から神の王国へと戻るとき、わたしたちの名はどこに記されますか（ルカ 10:20）。わたしたちの行動はどこに記録されますか（ピリピ 4:3）。

「キリストの愛と義と平和のみ国をえらび、このみ国の利害を、他のすべての利害にまさるものとする者はみな、天の世界に結合しており、この世の生活に必要な祝福はことごとく彼のものである。われわれは、神の摂理という本、すなわち人生という本の中に、各々一ページを与えられている。そのページには、われわれの歴史が、こまかい点まで書かれていて、頭の髪の毛までかぞえられている。神の子らは神のみこころから忘れられることがないのである。」（各時代の希望中巻 24）

b. なぜ「一度救われたら、つねに救われている」という教理は、聖書と矛盾にしているのですか（コリント第一 9:27; ヘブル 6:4–6; 黙示録　3:5）。

「わたしたちが神の子となるとき、わたしたちの名が小羊の命の書に記される。そしてそれらは調査審判の時までそこに残っている。そのとき一人びとりの名が呼ばれ、その人の記録は『わたしはあなたのわざを知っている』と宣言なさるお方によって調べられる。もしその日に、わたしたちの悪い行いがすべて完全に悔い改められていないことが明らかになるなら、わたしたちの名は命の書から消し去られ、わたしたちの罪がわたしたちに対して立ちはだかるのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1885 年 8 月 6 日）

c. 召され、選ばれた人々に要求されていることは何ですか（マタイ 24:13; ペテロ第二 1:1–11）。

「すべての魂は、主の園の実り多い木として、有用性と聖潔に成長するために、『力の限りをつくして』絶えず霊的な達成を加え、すべての恵みを強化し、能力を増していくために奮闘すべきである。彼はわたしたちの主なる救い主イエス・キリストの知識において不毛になったり実りのない者になったりしてはならない。真の宗教は、人を神の御目にオフルの黄金よりも尊いものとする賜物を培うようにと導く。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E.G. ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］7 巻 943）

木曜日 *1月20日*

5. 神の永遠のご目的

a. 聖書の中で、贖いの計画は、どのような名で呼ばれていますか（ローマ 16:25, 26; コロサイ 1:26, 27）。

「神は世界が創造される以前でさえ、将来の出来事を知っておられた。このお方はご自分のご目的を状況に合わせることはなさらなかったが、事態が発展し実現することをお許しになった。このお方は物事の特定な状態をもたらすために働くことはなさらなかったが、そのような状況が存在するようになることをご存じであった。天のいかなる高い知的存在者の離反に対しても実行されるべき計画―これこそ、世々にわたって隠された神秘であり、奥義である。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E.G. ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］6 巻 1082）

b. わたしたちは、恩恵期間の戸が永遠に開かれたままではないこと、また悔い改めなかった罪人に第二の恩恵期間はないことを、どのように知ることができますか（黙示録 10:6, 7（ルカ 13:23–25; 17:28–30 参照））。

「福音の時代は、人に与えられた恩恵期間の最後である。このテストと試みの時代の下に生きていながら、まだ悔い改めと服従に導かれていない人々は、不忠実によって滅びる。第二の試みはない。」（同上 7 巻 971, 972）

金曜日 *1月21日*

個人的な復習問題

1. **贖いはイエス・キリストの血によるため（エペソ 1:7; コロサイ 1:14）、カルバリーの十字架以前の神の忠実なしもべたちは、どのようにして救われましたか。**
2. **アダムとエバにはじめて伝えられた福音のメッセージは何でしたか。**
3. **神の予知を明らかにしている例を挙げなさい。**
4. **あなたは命の書について、何を知っていますか。**
5. **「代々にわたってこの世から隠されていた」奥義は何ですか（コロサイ 1:26）。**

象徴における贖罪

「血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。」（ヘブル 9:22）

「アダムの罪によって死と不幸がもたらされたので、イエス・キリストの犠牲によって、生命と不死があらわれる」（生き残る人々 62）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 55–62

日曜日　*1月23日*

1．犠牲の捧げ物

a.　キリストの死を常に人類の前におくために、神はどのような奉仕を制定なさいましたか（創世記 4:4）。その象徴的な意味は何ですか。

「犠牲の供え物は、神が人間のためにお定めになったもので、罪の悔い改めと約束の贖い主への信仰の告白を、いつまでも思い起こさせるものであった。」（人類のあけぼの上巻 61）

b.　サタンは、カインの思いの中で、どのように救いの計画の理解を、ゆがめることができましたか（創世記 4:3–7）。

「カインは約束の犠牲について、また犠牲の供え物の必要について、心中に不平と不信をいだきながら神の前に来た。彼の供え物は、罪の悔い改めの表明ではなかった。彼は、今日の多くの人々と同様に、神に指示された通りの計画に従い、約束の救い主の贖罪に全く自分の救いをゆだねることは弱さを承認することであると思った。彼は、自己信頼の道を選んだ。彼は自分の功績に頼った。彼は小羊を持ってきて、その血を供え物にまぜることをしないで、彼の実、彼の労働の産物をささげた。彼は自分から神にささげるものとして供え物をささげ、それによって、神に喜ばれたいと思った。カインは、神に従って祭壇を築き、犠牲をたずさえてはきたが、彼は部分的に従っただけであった。彼は最も重大な部分、すなわち、救い主の必要を認めることを省略していた。」（同上 66）

2. 根本的な相違

a. 贖罪に関して、カインとアベルの間の相違は何でしたか（ヘブル 11:4）。二人の兄弟の間の不一致を説明しなさい。

「アベルは、贖罪の大原則を理解した。彼は自分が罪人で、彼の魂と神との間の交わりを、罪とその刑罰である死とが妨げているのを知った。彼は、ほふられた犠牲、すなわち、犠牲にされた生命をたずさえてきて、彼が犯した律法の要求を認めた。彼は、流された血によって、来たるべき犠牲、カルバリーの十字架上のキリストの死を見た。そして、彼は、そこでなされる贖罪を信じて、自分が義とされ、供え物が受け入れられた証拠が与えられた。

カインはアベルと同様に、こうした真理を学んで受け入れる機会があった。彼は、独断的決定の犠牲者ではなかった。兄弟のうちのひとりが受け入れられて、他のひとりが退けられるように神は定められたのではなかった。アベルは、信仰と従順を選び、カインは、不信と反逆を選んだ。万事はこの点にかかっていた。」（人類のあけぼの上巻 68）

b. カインの不信仰の結果は何でしたか（創世記 4:8–12）。

「しかしカインは自分の罪を認めず、かえって神の不正をつぶやき、アベルをねたみ、憎んだのである。彼は、怒って弟を非難し、自分たちに対する神の処置について弟と論争を始めようとした。アベルは、柔和に、しかも恐れることなく、断固として神の公平と恵みを弁護した。彼は、カインの誤りを示し、彼がまちがっていることを納得させようとした。アベルは、両親が直ちに死の刑罰を受けるはずであったのに、彼らをお助けになった神のあわれみを指摘して、神が彼らを愛されたのでなければ、汚れのないきよいみ子を、彼らが当然受けるべき刑罰を受けるためにお与えになることはないと力説した。こうしたことは、みな、カインを激怒させた。理性と良心は、アベルが正しいことを認めるのであるが、これまで従順に彼の勧告に従った弟が、今度は彼にさからい、彼の反逆に同調しないのを怒ったのである。彼は、激しい怒りにもえて弟を殺してしまった。」（同上 70）

3. 二種類の礼拝者

a. 世の初めから存在してきた二種類の礼拝者を述べなさい。カインによって表わされている種類についてもっと詳しく描写しなさい（エゼキエル 33:31; ルカ 18:9–14）。

「カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する二種類の人々を代表している。一方は罪のために定められた犠牲を受け入れるが、他方は、あえて自分の功績にたよろうとする。彼らの犠牲は、神の仲保のいさおしによらないものであって、神の恵みにあずかることはできない。われわれの罪は、ただイエスの功績だけによって許される。キリストの血の必要を感じない者、神の恵みがほしくても、自分の行ないによって神に受け入れられると思っている者は、カインと同じあやまちを犯している。彼らは、清めの血を受けなければ、罪の宣告下にある。罪の奴隷から解放される道はほかに備えられていない。

カインの模範に従う礼拝者は、世界の大半をはるかに越している。というのは、ほとんどすべての偽りの宗教は、人間自身の努力によって救いを得ることができるという同じ原則に基づいているからである。」（人類のあけぼの上巻 68）

b. 歴史は二種類の相いれない原則―愛と許容　対　憎しみと迫害―の光のうちに、二種類の間の相違をどのように表していますか（ヨハネ第一 3:11, 12, 15, 16）。このことの光のうちに、わたしたちはどの警告に注意を払うべきですか。

「イエスは人の子らの邪悪に対して忍耐し、誤った道にいる彼らを憐れんでおられる。もしこのお方が、このお方に従う者だと主張している人々が感じるように感じられるなら、このお方が、ご自分の憐れみを乱用し、ご自分の恵みをさげすみ、ご自分の戒めに従うことを拒み、ご自分の権威を踏みにじる人々をご覧になるとき、たえず嫌悪と憎しみで満たされることであろう。このお方は、彼らの魂と体を買われた。そして彼らがご自分の最も苦い敵であるサタンに忠誠を捧げているにもかかわらず、なお彼らを愛しておられるのである。

だれでも、自分の兄弟をあるいは自分の敵でさえ憎むならば、自らの身を有罪宣告の下におかないではすまない。わたしたちはいつも、自分の造り主であり裁き主であるお方のみ手より、このお方とこのお方の被造物に対する自分たちのふるまいの性質にみあった報いを受けるのである。」（ｽﾋﾟﾘｯﾄ・ｵﾌﾞ・ﾌﾟﾛﾌｪｯﾄ 1898 年 1 月 13 日）

4. 父祖時代の礼拝

a. 父祖たちの時代に、神の民の間で、どのような礼拝制度が営まれましたか（創世記 8:20）。例を挙げなさい。

「犠牲をささげる行為によって、罪びとは自分の罪を認め、その獣をささげることに予表されている神のみ子という偉大にして完全なささげ物を待ち望む信仰を表明した。神のみ子の贖いがなければ、神が人間に祝福や救いをおあたえになる道はない。」（生き残る人々 65）

b. アブラハムの神への献身と、隣人たちの間での彼の感化力について、何と記されていますか（創世記 12:7, 8）。ソドムの悔い改めない住民のために彼が感じた気遣いから、わたしたちは何を学ぶことができますか（創世記 18:23–32）。

「『神の友』アブラハムは、尊い模範を残した。彼の一生は、祈りの生涯であった。彼は、天幕を張ると必ずそのそばに祭壇を築いて、朝夕の犠牲をささげるときに天幕内のすべての者を集めた。彼の天幕が移動していくと、祭壇はそこに残った。後年、アブラハムから教えを受けたカナン人が、そのあたりで放浪生活を営んだ。そうした人々のなかのだれかが祭壇を見つけると、そこにだれが住んでいたかがすぐにわかった。そして、そこに自分の天幕を張り、祭壇を修理して、生きた神を礼拝するのであった」（人類のあけぼの上巻 126）

「彼は、自分自身罪人であるが、罪人のために哀訴した。神に近づく人々は、すべてこのような精神をもたなければならない。アブラハムは、愛する父親に訴える子供のような確信をあらわした。彼は、天の使者のそばに近づいて熱心に訴えた。……

アブラハムは、滅亡にひんした魂への愛に動かされて祈った。彼は、腐敗したソドムの町の罪はきらったが、罪人が救われることを願った。アブラハムがソドムのために抱いた深い関心は、われわれが悔い改めていない人々に対して感じなければならない切実な思いを示している。われわれは、罪を憎まなければならないが、罪人には、あわれみと愛を持たなければならない。われわれの回りには、ソドムにのぞんだのと同じように、希望なく恐ろしい破滅に陥っている魂がある。毎日、だれかの恵みの期間が閉じている。」（同上 142）

木曜日 *1月27日*

5. 礼拝に関する正しい考えと誤った考え

a. サタンは、どのようにして、牛や山羊の血が実際に人々の罪を取り除くのに十分だという考えで、多くの人々を欺くことができましたか（イザヤ 1:11）。

b. 一連の形式主義へと堕落した宗教について、神は何と仰せになりますか（イザヤ 1:15; 箴言 28:9）。

「サタンは、主がご自分の民を祝福し、サタンの惑わしを識別するために彼らを準備させるのがわかるとき、片手には狂信を、もう片方には冷たい形式主義をもちこむために自分の見事な力をもって働き、自分が魂の収穫を集めることができるようにする。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 19）

c. 神が本当に要求しておられることは何ですか（ホセア 6:6; イザヤ 1:16–18; 55:6, 7）。

「習慣に従って朝夕に祈っていると言われているものは、必ずしも熱心でなく効果的でもない。多くの者は眠たげで、にぶく、心のこもらない言葉の繰り返しであって、主の耳に届かない。神はあなたの儀式的な賛辞を必要としていなければ、要求してもおられない。しかし、このお方は砕けた心、罪の告白、魂の悔悟を尊重なさる。へりくだった砕けた心を、このお方はかろしめられない。……

「わたしたちはイエスのために苦しむこと、あるいは死ぬことでさえ特権だと思うほどのイエスに対する愛を持たなければならない。わたしたちは主に自分たちのすべての試練を、わたしたちのすべての弱さを、わたしたちがまったくこのお方の大能と力により頼んでいることを告げなければならない。これが真の祈りである。もし神ご自身がわたしたちの祈りをつづり、恵みと嘆願の御霊がわたしたちの上に注がれる必要のある時があるとすれば、それは今である。」（天国で　87）

金曜日 *1月28日*

個人的な復習問題

1. 罪が世に入るや否や、なぜ犠牲の捧げ物が要求されたのですか。
2. カインとアベルの捧げ物の主な相違は、何でしたか。
3. カインとアベルはどのように二種類の礼拝者を象徴しているかを説明しなさい。
4. 父祖たちの時代に、どのように救いの希望は、生き生きと保たれていましたか。
5. 真の宗教の実践において、いくつかの重要な局面は何ですか。

第一安息日献金

世界災害救済基金

「地震、台風、洪水、干ばつ、わたしたちの周りは至る所で、荒廃、貧困、ホームレス、飢饉が見られます。2007年以来、世界災害救済基金は、それ以前の10年間を合わせた分以上に支援を求める声に応えてきました！わたしたちには、困窮している人々を助ける義務がありますか？

「わたしたちのタラントがどれくらいであろうと、1タラントか、2タラントか、あるいは5タラントであろうと、1円たりとも虚無や誇りや利己心のために浪費してはならない。わたしたちの蓄財のすべての貨幣に神の像と銘が押されているのである。神の御国に養われるべき飢えた人々がいる限り、覆われるべき裸の者がいる限り、そして救いのパンと水のために滅びるばかりの魂がいる限り、すべての不必要な放縦、すべての余剰資本は、貧しい者や裸の者のために嘆願するのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892年6月20日）

世界災害救済基金はこの援助を調整する責任があります。そして完全なボランティア運営として、雇用者も間接費もなく、すべての献金は直接100%、全額が福祉伝道へ送られます。世界救済基金の運営費用はすべて、通常の教会献金を通してまかなわれています。これにより、世界災害救済基金は、集められた金銭を一円残らず、最も困窮している人々に送ることができます。

チリ、ハイチ、ペルーへの地震救済、中央アフリカにおける食物支援プログラムのために、世界災害救済基金は世界中に送られてきました。この安息日に、みなさんもまた福祉伝道を支援する機会があります。「神が人に委ねてこられた金銭は、人類を祝福し、苦しんでいる人々や困窮している人々の必要を満たすために用いられるべきである。……賢明な神のみ摂理のうちに、絶えず彼らの前に、まさに彼らの助けを必要としている人々が示されている。彼らは苦しんでいる人々を救済し、裸な者に着せ、厳しくつらい状況にいる多くの人々、全精力を尽くして自らと家族を貧民窟から守るために格闘している人々を助けるべきである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1898年1月4日）

–デイビット・ジック，　世界総会福祉支部書記–

エジプトからの救出

「この日はあなたがたに記念となり、あなたがたは主の祭としてこれを守り、代々、永久の定めとしてこれを守らなければならない。」（出エジプト記 12:14）

「過越節は、イスラエルがエジプトの奴隷状態から救済された記念として定められた。毎年、……その歴史をくりかえして聞かせるようにと、神は指示された。」（各時代の希望下巻 131）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 314–322

日曜日　*1月30日*

1.　制定された過越の祭り

a.　イスラエルがエジプトから出立する前に、反逆的な君主であったパロに与えられた最後のメッセージは何でしたか（出エジプト記 11:4–8）。

b.　この宣告を執行する前に、神はイスラエルの出立に関して、彼らにどのような指示をお与えになりましたか。出エジプト記 12:1–28 を要約しなさい。

「主は、モーセを通して、イスラエルの子らにエジプトから出て行くことについての指示と、特に、迫っている刑罰から守護されるようにするための指示を与えられた。それぞれ家族は自分たちだけか、あるいは他の家族と一緒になるかして、『傷のない』小羊、または小やぎをほふり、ヒソプの束でその血を『家の入口の二つの柱と、かもい』に塗らなければならなかった。それは滅びの天使が真夜中に通過するとき、その家にはいらないためであった。……

この大いなる解放を記念して、後世のイスラエル人は、みな一つの祭りを年ごとに守ることになった。……後世、彼らがこの祭りを行なうとき、彼らはモーセが命じたようにこの大いなる解放の物語を、その子孫にくり返して聞かせなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 315-317）

「こうした祭りの第一のものは、ユダヤ暦の第一月、すなわちアビブの月に行なわれた過越の祭りと種入れぬパンの祭り　で、これは（太陽暦の）３月末から４月の初めに当たる。……

過越の祭りに引き続いて、七日間の種入れぬパンの祭りがあった。」（同上下巻 177, 182）

2. 血のしるし

a. イスラエル人の家に塗らなければならなかった血の意味は、何ですか（出エジプト記 12:7, 13, 23）。

「奴隷たちは、自由を得るに先だって、間もなく成就されようとしている大いなる解放を信じていることを表わさなければならなかった。血のしるしを彼らの家に塗り、彼らとその家族はエジプト人から離れて、それぞれの家の中に集まっていなければならなかった。もしイスラエル人が、与えられた命令のどのような点でも、無視したり、彼らの子供をエジプト人から離すことを怠ったり、小羊を殺しても門の柱に血を塗ることを忘れたり、あるいはだれか家の外に出ているようなことがあったならば、彼らは安全ではなかったであろう。彼らが、必要なことをことごとくすませていると心から思っていたとしても、ただ真剣にそう思っただけでは救われなかったのである。主の命令に注意を払わなかった者は、みな滅びの天使によって、そのういごを失うのであった。……

血のしるし（それは救い主の保護のしるしであった）が、彼らの戸にあったので滅ぼすものははいらなかった。」（人類のあけぼの上巻 320, 322）

b. わたしたちはどの保護のしるしを必要としていますか―そしてどのようにしてのみ、それを手に入れることができますか（エゼキエル 9:4; 黙示録 7:1–3; 14:1）。

「神の民の額に押される生ける神の印とは何であろうか。それは、人間の目には見えないが、御使たちが読むことのできるしるしである。なぜなら、滅ぼす天使がこの贖いのしるしを見なければならないからである。知性ある思いは、主の養子とされた息子や娘たちのうちに、カルバリーの十字架のしるしを見てきた。神の律法の不法の罪は、取り去られている。彼らは礼服を着ており、神のすべての戒めに従順で忠実なのである。」（マラナタ 243）

「神のしるし、もしくは印は、第七日目の安息日、すなわち主の創造の記念日の遵守のうちに明らかにされている。」（教会への証 8 巻 117）

「世に、肉に、そして悪魔に打ち勝つ人々は、生ける神の印を受ける恵まれた人々となる。手が清くなく、心の純潔でない人々は、生ける神の印を受けることがない。罪を企て、それを実行する人々は素通りされる。ただ、神のみ前における態度が、贖罪の大いなる実体の日に、自分たちの罪を悔い改め、告白している者の立場を占める人々だけが、神の保護を受ける価値がある者として認められ、しるしを受けるのである。」（牧師への証 445）

3. 苦菜と種入れぬパン

a. イスラエル人は、過越の羊と共に何を食べるように命じられましたか（出エジプト記 12:8）。苦菜の意味は何ですか。

「小羊は苦菜と共に食べなければならなかったが、それはエジプトでの奴隷の苦しさを示していた。そのようにわれわれがキリストを食べるとき、われわれは心のうちで自分の犯した罪の悔い改めをしていなければならない。」（人類のあけぼの上巻 319）

b. この最後の時代に生存しているとき、苦菜によって神の民は何を考えることができますか（ヘブル 2:18; 黙示録 1:9）。

「キリストがご自分の民に、彼らがキリストの再臨前に直面しなければならない恐るべき戦いを明らかになさったのは、『兄弟であり、共に……苦難』をあずかる者を通してであった（黙示録 1:9）。くるしい苦闘の光景が彼らに明かされる前に、彼らは自分たちの兄弟たちもまた杯を飲み、バプテスマを受けたことを思い起こさせられるのである。これらの初期の真理の証人たちを支えられたお方は、最後の争闘のうちにいるご自分の民をお捨てになることはない。」（ホーム・ミッショナリー 1893 年 11 月 1 日）

c. 種入れぬパンは、何を象徴していましたか―そしてこれは今日わたしたちにとって何を意味していますか（出エジプト記 12:15; コリント第一 5:6–8）。

「キリストに従う者は、彼の経験にあずかる者でなければならない。彼らは神の言葉を受け入れ、消化し、それが彼らの生活と行為を動機づける力となるようにしなければならない。彼らは、キリストの力によって彼のかたちに変えられ、神のご性質を反映しなければならない。彼らは、神の子の肉を食べ、血を飲まなければならない。そうしなければ、彼らの中に生命はない。キリストの精神と働きが彼の弟子たちの精神となり、働きとなるべきである。……

種入れぬパンを用いたことにも深い意味があった。それは過越の祭りのさだめに明らかにしるされており、ユダヤ人も実際に厳格に守っていたので、その祭りの期間中、彼らの家でパン種をみることは絶対になかった。同じようにキリストから生命と栄養を受ける者はみな、罪のパン種を取り除かなければならない。」（人類のあけぼの上巻 319, 320）

4. 記念的また象徴的な儀式

a. だれが過越の小羊を食べることが許されましたか（出エジプト記 12:43, 45）。その人がこの儀式にあずかることが許される前に、どのような要求を満たさなければなりませんでしたか（出エジプト記 12:44, 48）。

「キリストはバプテスマを、ご自分の霊的な王国に入る資格となさった。」（神の驚くべき恵み 143）

b. 新しい契約の下では、過越の祭りはどの儀式に替わりましたか（ルカ 22:14–20）。それにあずかるためには、どの要件が必要ですか。

「救い主がカルバリーでおなくなりになったときに、過越の祭りの意義はもうなくなり、過越の祭りが象徴していた同じ事件の記念として、主の晩餐儀式が制定された。」（人類のあけぼの下巻 182）

「過越の祭りは記念の祭りであると共に、また、一象徴的な祭りでもあった。それはエジプトからの解放を指示していたばかりでなく、キリストがその民を罪の束縛から自由にして成就される、さらに驚くべき解放をも表示していた。」（同上上巻 318）

c. 神は、今日なおも昔のヘブル人の儀式を続けようとする自称クリスチャンたちの試みをどのようにご覧になりますか（ガラテヤ 4:9–11）。新約版の過越の務めに何が加えられましたか—それはなぜですか（ヨハネ 13:1–17）。

「この〔謙遜の〕儀式において、キリストはご自分の弟子たちを、儀式や祭典における昔のユダヤ人の義務のわずらいや重荷から解放された。これらには、もはや何の徳もなかった。なぜなら、このお方のうちに、型が本体と合ったからである。すなわち、このお方は、このお方を世の罪の大いなる唯一の効果ある捧げ物として指し示すすべてのユダヤ人の儀式の権威であり、基礎であられた。……

この儀式は、人の知的能力に語るよりも、その心により多く語るのである。彼の道徳的また霊的性質は、それを必要としている。……ご自分の弟子たちに、まさに彼らが必要としていることを彼らのためになす儀式を残すことがこのお方の願いであった。すなわち、これまで彼らが重要なこととして携わってきたが、福音を受け入れることにより、もはや効力のない儀式と祭典から彼らを解放する役目を果たすのであった。これらの儀式を続けることは、エホバへの侮辱となるのであった。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1898 年 6 月 14 日）

木曜日 *2月3日*

5. 長子

a. 長子を捧げることには、どのような象徴的な意味がありましたか（民数記 3:13）。

「長子を神にささげることは、最も古い時代から始まっていた。神は天の長子であられるキリストを罪人の救いのために与えると約束された。この賜物をみとめるしるしとして、どの家庭においても、長男が神にささげられた。長男は、人々の中におけるキリストの代表者として、祭司職にささげられるのであった。」（各時代の希望上巻 38）

「さらに、人間と家畜のういごは共に主のものとなり、あがないによってのみ、自分たちのものとなったが、それはエジプトのういごが殺されたとき、イスラエルのういごが恵みによって救われたとはいえ、もし、贖罪の犠牲がなかったならば、同じ運命にさらされていたことを認めるものであった。」（人類のあけぼの上巻 317）

「このように、長子をささげる律法は特に意義のあるものとされていた。それは神がイスラエルの民を救済されたふしぎなみわざの記念であると同時に、また神のひとり子イエスによってなしとげられるさらに大いなる救済を予表していた。門口に塗られた血によってイスラエルの長子が救われたように、キリストの血には世の人々を救う力がある。」（各時代の希望上巻 39）

b. どのような意味において、キリストは長子であられますか（コロサイ 1:18; 黙示録 1:5）。

金曜日 *2月4日*

個人的な復習問題

1. **過越の祭りとは何ですか。またそれはいつ行われましたか。**
2. **主がイスラエル人をエジプトから救出しようとしておられたとき、彼らはどのように来るべき奇跡を信じる自分たちの信仰を表すことが要求されましたか。**
3. **種入れぬパンと苦菜によって、何が象徴されていましたか。**
4. **過越節は過去に対してどの出来事を記念として指し示していましたか。将来に対して、どの出来事を象徴として指し示していましたか。**
5. **長子の献納は何を記念していましたか。また型として何を予表していましたか。**

地上の神の王国

「あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう」（出エジプト記 19:6）

「神は、選民によって、全人類に祝福を与えようとご計画になった。」（国と指導者上巻（「主のぶどう畑」3）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 352–368

日曜日　*2月6日*

1．神は民を選ばれる

a.　紅海を渡った後に、モーセが作詞した救出の歌の中で、彼は地上に王国を建てる神のご計画について何と述べましたか（出エジプト記 15:17，18）。主はアブラハムの子らのためにどのようなご計画を持っておられましたか（出エジプト記 19:5, 6）。

b.　その計画には、どの約束が含まれていましたか（出エジプト記 29:45）。

c.　神は人を偏り見る方ではないにもかかわらず（歴代志下 19:7；使徒行伝 10:34）、なぜこのお方はイスラエルの民を選ばれたのですか（申命記 9:3–5；10:15）。今日、なぜ同様にこのお方はわたしたちを選ばれるのですか（コリント第一 4:9 （下句））。

「神はイスラエルをえらばれたのだった。神は人々の間に、神の律法について、また救い主をさし示している象徴と預言とについて知識を残すために、イスラエルを召されたのだった。神は、イスラエルが世に対して救いの井戸となるように望まれた。アブラハムがその滞在した土地で、ヨセフがエジプトで、ダニエルがバビロンの宮廷でそれぞれ果した役割を、ヘブル人は諸国民の中で果すのであった。彼らは人々に神をあらわすのであった。」（各時代の希望上巻 14，15）

「自分たちの言葉と行いによって、わたしたちは世に、御使たちに、そして人々に、わたしたちがキリストを個人的な救い主として信じているかどうかを表すのである。」（ユース・インストラクター 1900 年 4 月 26 日）

2. 神はご自分のご目的を明らかになさる

a. 神はイスラエルの前にどのような目的を定められましたか（申命記 4:5–8）。彼らを通して、何が成し遂げられなければなりませんでしたか（申命記 28:12; イザヤ 2:2, 3）。

「神は神の民が世界の光となるように計画なさったのであった。生活の実際行動にあらわされた神の律法の栄光が、彼らから輝き出なければならなかった。こうした計画を遂行するために、神は選民が地上の諸国の中の戦略的位置を占めるようになさったのである。

ソロモンの時代に、イスラエル王国は北はハマテから南はエジプト、また、地中海からユフラテ川にまで及んだ。この地域の中を昔ながらの通商路が数多く通っていた。そして、遠国からの隊商が絶えず行き来していた。

こうして、ソロモンとその国民には、万国の人々に、王の王の品性をあらわし、彼らに神をあがめて従うように教える機会が与えられていた。この知識は全世界に伝えられるべきであった。犠牲の献げ物の教えによって、キリストは国々の前で高められなければならなかった。それは生きようと望むものがみな生きることができるためであった。」（国と指導者上巻 44, 45）

b. 主はご自分の民に、何を真剣に考えるようにと、くりかえし思い起こさせられましたか（申命記 7:6–9; 28:15, 16, 33）。

c. ユダヤ人から王国が取り去られようとしていたとき、彼らにどのような警告が与えられましたか（マタイ 8:11, 12）。なぜ彼らはついに王国を失ったのですか（マタイ 21:43; マルコ 12:6–9）。

「ユダヤの指導者たちは、教えを必要としないほど賢く、救いを必要としないほど正しく、キリストから来る名誉を必要としないほど高くあがめられていると思っていた。救い主は、彼らが誤用していた特権と、彼らが軽視していた仕事を他の人々にゆだねるために、彼らに背を向けられた。神の栄光が現わされ、神のみことばは確立されなければならない。キリストの国はこの世界に建設されなければならない。」（患難から栄光へ上巻 8）

3. 今日わたしたちのための神のご計画

a. 新しい契約の下にいる人々に対する神のご計画を述べなさい（ルカ 12:32; 17:21）。

「日ごとに、人は自分たちのうちに神の王国があるかどうかを表している。もしキリストが彼らの心のうちで治めておられるなら、彼らは原則の強さ、力、忠実な歩哨すなわち真の改革者として立つ能力を得ているのである。なぜなら、イエス・キリストとの徹底した協力がない限り、改革はあり得ないからである。

キリストの恵みを通して、人は自らを改革するために、神から与えられた機能を用いるべきである。天の主が是認をもってご覧になる、この自己否定の行動によって、彼らは自分たちの悪い先天的後天的傾向に対する勝利を得る。そのときダニエルのように彼らは他の人々の心に決して消すことのできない印象を残すのである。影響は世界の至る所に及ぶようになる。」（原稿リリース 20 巻 113）

「キリスト教は、……信条ではない。それはとこしえに生き、とどまるお方の言葉である。それは思いと心と動機と全存在とをとらえる生きた活動的な原則である。」（同上 114）

b. 主は、ご自分の選ばれた者たちのうちに、また彼らを通して、どのような勝利を成し遂げたいと望んでおられますか（マタイ 5:14, 16; ピリピ 2:15）。

「人は、自分自身の選択に従って、取るべき側を選んでいる。神のみ言葉によって養われている人々は、その実践によってそれを示す。彼らは主の側におり、規則と模範によって世を改革しようと努めている。……

わたしたちにとって考えるべき問いは、わたしたちはキリストの特質をもっているであろうか、ということである。言い訳に価値はない。あらゆる状況、あらゆる食欲と情欲は、神を畏れる人の僕となるべきであって、彼を支配するものとなってはならない。クリスチャンは、いかなる先天的後天的習慣や傾向にも奴隷にされてはならない。彼は、習慣のくびきにつながれるよりも、むしろ動物的な情欲を支配しなければならない。わたしたちは、世がかつて知った中で最も偉大な教師から学んだ内に働く原則により、状況の僕となるのではなく、状況を支配する者とならなければならない。わたしたちが今日世に対してとっている厳粛な立場、わたしたちの主によって課された厳粛な責任と義務は、わたしたちの意志と状況が適合されるまでなおざりにしてはならない。キリストの、バプテスマのヨハネの、ダニエルと三人の友達の模範のうちに表された自己否定と自己犠牲の原則は、先天的後天的習慣の間と、あらゆる状況や環境の間を、鋤のように通らなければならない。」（同上 113, 114）

4. 二種類の人々

a. 今日、わたしたちが天のカナンの境界線に近づくにつれ、どの警告に注意を払わなければなりませんか（ルカ 21:34–36; ローマ 13:11, 12）。

「信仰によってキリストを自分の個人的な救い主として受け入れる人々は、世と調和することはできない。はっきり区別された二種類がある。一方は、神の戒めを守る神に忠実な者であり、もう一方は世のように語り、行動するのである。」（牧師への証 139）

b. 今日、特別な力をもって、どの光景があてはまりますか（ルカ 17:26–30; 使徒行伝 2:40）。

「世のすべてのものが激動している。時のしるしは険悪な兆候を示している。……

人々はあいかわらず飲み食い、植え、建て、めとり、とついでいる。商人たちはあいかわらず売り買いしている。人々は最高の地位を争ってお互いにおしのけ合っている。快楽を愛する者たちがあいかわらず劇場や、競馬や、ばくち場におしかけている。最高の興奮が行き渡っているが、恩恵の時は急速に閉じられつつあり、各人の運命が永遠に決定されようとしている。サタンは自分の時が短いことを知っている。サタンは人々が欺かれ、惑わされ、心を占領され、夢中になって、ついには恩恵の日が終わり、恵みの戸が永遠に閉ざされるように、すべての手下を働かせてきた。」（各時代の希望下巻 105）

c. この世の二種類の人々を描写しなさい（テサロニケ第一 5:4, 5）。光の子は何をしていますか（ルカ 11:28）。何が教会に行く多くの人々を、闇の子としていますか（マタイ 24:48–51）。

「社会全体は、従順と不従順の二つの大きな種類に分かれつつある。わたしたちはどちらにいるのを見出されるであろうか。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E．G．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］7 巻 949）

「人は、自分自身の選択に従って、取るべき側を選んでいる。神のみ言葉によって養われている人々は、その実践によってそれを示す。彼らは主の側におり、規則と模範によって世を改革しようと努めている。神から教えられることを拒んできたすべての人は、人の伝統にしがみつく。彼らはついに敵の側にまわり、神に敵対し、反キリストと記されるのである。この世の歴史におけるわたしたちの立場を理解する神の民は、開かれた耳とやわらげられ征服された心をもって、共に一団となって進み、イエス・キリストと一つなのである。」（原稿ﾘﾘｰｽ 20 巻 113）

木曜日　2月10日

5. わたしたちの前の永遠

a. 各々すべての人が、遅かれ早かれ、わたしたちすべての前に広がっている永遠を考慮して自分の選択をしなければならないために、ヨハネ第一 2:17 には、何と記されていますか。

「主の出現を待ち望んでいると公言する多くの人々は、世の利益を求めて心を悩まし、重荷を負っている。彼らは自分たちの永遠の利益に対して盲目である。彼らは満ち足りないもののために労している。彼らは自分たちの金銭を糧とならないもののために費やしている。彼らは自らを、地上に積んできた朽ちるべき宝をもって満たそうと奮闘し、自分たちの生涯における第一にして唯一の本当の働きとなるべき、永遠のための準備をなおざりにしている。」(教会への証 2 巻　600)

「永遠のためにあなたの決断を下しなさい。」(同上 495)

b. わたしたちは永遠のために備えなくてはならないがゆえに、どの訓告を念頭におくべきですか (ペテロ第一 5:6–10)。

「どこに安全があるだろう。人についても、この世についても保証は何もない。人々は自分の選んだ旗の下に急いで参加している。……主の現われを待ち、見守り、そのために働いている人たちがいる。もう一方の種類の人たちは最初の大背信者の統率下に参加している。避けるべき地獄と獲得すべき天国とがあることを全心全霊から信じている人は少ない。」(各時代の希望下巻 105)

「わたしたちはどちらを選ぶであろうか―キリストにある自由であろうか、あるいはサタンの奉仕におけるくびきと圧政であろうか。なぜ憐れみの招きを拒み、神聖な愛の申し出を拒否すべきであろうか。もしわたしたちが永遠につきることのない時を通じてキリストと共に生きることを選ぶのであれば、なぜ今このお方を、わたしたちの最も愛し信頼できる友として、またわたしたちの最高のまた最も賢明な相談者として選ばないのであろうか。」(ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰ 1894 年 6 月 25 日)

金曜日　2月11日

個人的な復習問題

1. 神はなぜイスラエルを選ばれたのですか。
2. なぜ王国はユダヤ人から取り上げられて、他の人々に与えられたのですか。
3. この世に関して、何がご自分の民のための神のご計画ですか。
4. 真のクリスチャンと名目的クリスチャンの違いを説明しなさい。
5. なぜ多くの自称クリスチャンは欺かれて、天を失うのですか。

天の聖所のひな型

「また、彼ら〔イスラエルの子ら〕にわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」（出エジプト記 25:8）

「〔神は〕モーセに天の聖所の縮小版をお示しになり、すべてのものを山で彼に示された型の通りに作るようにとお命じになった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1880 年 6 月 24 日）

推奨文献：　　生き残る人々 176–183

日曜日　*2 月 13 日*

1．地上の幕屋

a.　神はエジプトからイスラエルを救出なさいました（出エジプト記 12:51）。そのとき、このお方は彼らを組織なさいました（出エジプト記 18:21–26）。その後、このお方は彼らにご自分の律法をお与えになりました（出エジプト記 20:3–17）。イスラエルのうちになされるべき次の重要なことは何でしたか（出エジプト記 25:8）。

b.　主は、どのような設計計画をモーセにお示しになりましたか（出エジプト記 25:9, 40;　ヘブル 8:5）。

「手で造られる幕屋は、『ほんとうのものの模型』『天にあるもののひな型』（ヘブル 9:24,　23）―われわれの大いなる大祭司キリストが、ご自分の生命を犠牲となさった後で、罪人のために奉仕なさる天の神殿のひな型であった　。神は、山でモーセの前に天の聖所の光景を示し、すべてのものを示された通りに造ることを命じられた。」（人類のあけぼの上巻 405,　406）

c.　地上において、神はどこでイスラエルの子らとお会いになると約束なさいましたか（出エジプト記 29:42–46）。

「神はイスラエルのために『彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである』とモーセにお命じになった（出エジプト記 25:8）。そしてこのお方はご自分の民のただ中の聖所に住まわれるのであった。」（今日のわたしの生涯 290）

2. 神が宿られる

a. 天では、どこに神のみ座がありますか（イザヤ 6:1; 詩篇 11:4）。

b. 天ではどこで、キリストが御父と共にみ座についておられますか（ヘブル 8:1, 2）。

c. なぜキリストがわたしたちの仲保者として宮におられるということに、特別な意味があるのですか（ヘブル 4:14–16）。

「イスラエル人が疲れはてて荒野をさまよい歩いていた間じゅう、神の臨在の象徴は彼らとともにあった。そのように、キリストはわれわれ人間の陣営のまん中にご自分の幕屋をお建てになった。キリストはわれわれのうちに住み、ご自分のきよい品性と生活とをわれわれにあらわすために、人間の天幕のそばにご自分の天幕を張られた。『ことばは肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた』（ヨハネ 1:14）。イエスがわれわれとともに住むためにおいでになったので、われわれは、神がわれわれの試練をよく知り、われわれの悲しみに同情してくださるということがわかる。アダムのむすこ娘はみな創造主が罪人の友であることをさとることができる。なぜなら、救い主の地上生活にあらわされた恵みの教理の一つ一つに、よろこびの約束の一つ一つに、愛の行為の一つ一つに、きよい美しさの一つ一つに、われわれは神がわれらとともにいますことをみとめるからである。」（各時代の希望上巻 7）

d. ほかにどのような描写が、神のみ座の栄光に満ちた光景について、明らかにしていますか（黙示録 4:4; 7:13–15; 8:3）。

e. 提示された恐るべき天の光景を考えるとき、わたしたちの絶えざる目的は何であるべきですか（黙示録 3:21; コロサイ 3:1, 2）。

「この世の事物を求めて、自分たちの品性を世に似たものに形作るより、上にあるものを求める方が、どれほどはるかに良いことであろう！」（説教と講和２巻 228）

「わたしたちの仲保者として立ってこられたお方、すべての悔い改めの祈りと告白を聞いて下さるお方、その頭を取り囲む恵みと愛の象徴である虹をもって表されているお方は、まもなく天の聖所におけるご自分の働きをおやめになる。恵みと憐れみは、そのときみ座から降り、正義がその場所を占める。その民が眺めてきたお方は、ご自分の権威―最高裁判官の職務―の座につかれる。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1889年１月１日）

3. 贖いの働きの中心

a. わたしたちのためのキリストの働きの中心はどこですか（ヘブル 9:11, 12）。なぜ聖所の奉仕の知識は、必須なのですか（詩篇 77:13）。

「天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである。それは、地上に生存するすべての者に関係している。それは、贖罪の計画を明らかにし、われわれをまさに時の終わりへと至らせて、義と罪との戦いの最後の勝利を示してくれる。すべての者が、これらの問題を徹底的に研究し、彼らのうちにある望みについて説明を求める人に答えることができるようにすることは、何よりも重要なことである。」（各時代の大争闘下巻 222）

b. 聖霊はいつ天の聖所への道を明らかにして下さいましたか（ヘブル 9:8; 6:18–20）。

「奉仕は地上の宮から天上の宮へ移されても、また聖所とわれらの大祭司は人間の目には見えなくても、弟子たちはそのことによって何の損失もこうむらないのであった。救い主がおられないからといって、まじわりが中断されたり、力が減少したりするようなことはないのであった。イエスは天の聖所で奉仕しておられる一方では、いまでもみたまによって地上の教会の奉仕者であられる。」（各時代の希望上巻 194）

c. もしキリストが真の幕屋で奉仕するために、「ほんとうのものの模型」ではなく、「上なる天にはい」られたのだとしたら（ヘブル 9:24）、わたしたちは、どのようにして、このお方のみ許へ行くことができますか（ヘブル 4:14–16）。

「御父が人間のためにキリストをお受入れになったことにより、わたしたちは御子の功績を通して、御父の許へ行く道を見出すことができると保証されている。わたしたちは愛されているお方のうちに受け入れられる。世の贖い主なるイエスは、道を開いて下さり、最も罪深い者、最も困窮している者、最も圧迫され、さげすまれている者も神のみ許へ行く道を見出し、イエスがご自分を愛する者たちのために用意しに行かれた住まいに家を見出すことができる。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰ 1893 年 2 月 1 日）

4. 正確さと完全

a. 地上の幕屋を建てる際に、神が何度も何度も、すべてが「型に従」って建てられなければならないと要求された事実から、どのような教訓を得ることができますか（出エジプト記 25:9, 40; 使徒行伝 7:44）。

「わたしたちのすべての仕事において、機械的な分野においてさえ、神はご自分の品性の完全さが現れることを望んでおられる。このお方はご自分が地上の幕屋の建物に要求された正確さ、技能、機転、知恵、そして完全さが、ご自分の奉仕でなされるすべてのことに持ち込まれるようにと望んでおられる。このお方のしもべによってなされるすべての取引は、このお方の御目に、幼い救い主のところへ東方の博士たちが真心からの腐敗していない信仰のうちに携えてきた金や乳香や没薬のように、純潔で尊いものでなければならない。」（教会への証 7 巻 142, 143）

b. この教訓は、どのように栄光の王国に場所を得るための候補者に当てはまりますか（マタイ 5:48; コロサイ 1:28;　4:12）。

「パウロは、神の大使の働きを、すべての人をキリスト・イエスにあって完全な者として提示する働きとして述べている。天に起源をもつ真理を擁している人々は、真理により精錬され、高尚にされ、聖化されるべきである。真の人間性の神の標準に到達するには、大いに骨の折れる努力を要する。石切り場から切り出された、いびつな石はのみで削られ、その粗い側面は磨かれなければならない。今は、表面的な働き、簡単な方法、神の立てられた品性の標準とは関係のない自慢げな聖潔で知られている時代である。あらゆる抜け道、あらゆる近道、また神の律法を宗教的な品性の標準として高めないあらゆる教えは、偽ものである。品性の完全は一生の働きであり、神の定められた道で、ゆっくりした骨の折れる段階を踏むことによって、それを得るために奮闘しようとしない人々は、手に入れることができない。わたしたちはこのことにおいてどんな間違いも犯すわけにはいかない。かえって日に日にわたしたちの生ける頭であられるキリストへと成長していきたいのである。」（同上 5 巻 500）

「あなたが生きる一日一日において、あなたはキリストのご品性のうちに完全に現された幸いな特質を完成させることができる。そしてあなたがこのようにするとき、あなたの家庭に光と愛と平安と喜びをもたらすのである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 7 月 29 日）

木曜日 *2月17日*

5. 備えられた材料

a. 主は、奇跡的に、聖所の建物のために必要な一切の材料を備えることもおできになりました。なぜ、このお方は民に、ただ自発的な捧げ物だけを携えてくるように要求なさったのですか（出エジプト記 25:1–8）。

「費用のかかる大変な準備が必要だった。貴重で高価な材料を集めなければならなかった。しかし主は任意のささげ物だけをお受け入れになった。神の住居をつくる準備として要求された第一のことは、神の働きへの献身と心からの犠牲だった。」（生き残る人々 177）

「神は自発的な奉仕だけをお受入れになる。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［Ｅ．Ｇ．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］7 巻 977）

b. 自分自身の品性の建設者として、わたしたちは建てるための霊的な材料を選ぶにあたり、どのように気をつけるべきですか（コリント第一 3:10–15）。

「自分たちの品性建設において、わたしたちはキリストの上に建てなければならない。このお方こそ確かな基礎―決して動かされ得ない基礎であられる。誘惑や試練の嵐は、とこしえの岩に固定された建物を動かすことはできない。

主のために美しい建物へと成長したい人は、もっているあらゆる力を伸ばさなければならない。品性が調和をもって発達するのは、ただタラントを正しく用いることによってのみである。」（家庭の教育 163）

「神のみ言葉は、わたしたちがどのように建てているかに注意するように、わたしたちの品性がとこしえの岩の上に基礎を置いているかを調べるようにと警告している。」（同上 161, 162）

金曜日 *2月18日*

個人的な復習問題

1. **なぜ、神はモーセに、イスラエルのただ中に天の聖所のひな型を建てることをお委ねになったのですか。**
2. **御父と御子は天のどこにご自分たちのみ座をもっておられますか。**
3. **キリストは、天の聖所で奉仕しておられる間、どのようにこの地上にいるご自分の民と共にご臨在なさることができますか。**
4. **神が聖所の建物を建築する際に要求なさった正確さと完全によって、何が象徴されていますか。**
5. **幕屋のために注意深く材料を選択することは、何を象徴していますか。**

二つの部屋

「その垂幕は……聖所と至聖所とを隔て分けるであろう。」（出エジプト記 26:33）

「〔幕屋の〕建物は、金でおおった柱からたれ下がった豪華な幕、すなわち、とばりによって二つの部屋に分けられていた。」（人類のあけぼの上巻 407）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 405–411

日曜日　*2 月 20 日*

1．聖所と至聖所

a．聖所の第一の部屋、あるいは聖所を描写しなさい（ヘブル 9:2）。

「聖所には、南側に燭台があって、その七つのともし火が、昼も夜も聖所を照らしていた。北側には供えのパンの机があった。そして聖所と至聖所をへだてる幕の前に、金の香壇があって、そこから香の煙がイスラエルの祈りとともに、毎日神の前にのぼっていった。」（各時代の大争闘下巻 124）

b．聖所の第二の部屋、あるいは至聖所を描写しなさい（ヘブル 9:3–5）。

「至聖所には、貴い木で造られ、金で覆われた箱があって、その中に、神によって刻まれた十戒の二枚の石の板が入れてあった。この神聖な箱の上にあって、そのふたの役目を果たしているのが、贖罪所であった。これは、実に巧みに仕上げられたりっぱなもので、その両端にケルビムが置かれ、全部純金で造られていた。この部屋において、神の臨在が、ケルビムの間の栄光の雲の中にあらわされたのであった。」（同上 124）

2. 燭台と供えのパン

a. 燭台はだれを象徴していましたか（出エジプト記 25:31, 32; ヨハネ 8:12; 黙示録 1:20）。

「燭台も、教会も、自ら輝くものは一つもない。すべての光はキリストから発する。今日の天の教会は、地上の教会のかたわれにすぎない。しかしそれはより高尚で、より大きく、―完全―なのである。同じ神聖な輝きが永遠の時代を通じて続かなければならない。主なる全能の神と小羊が、その光であられる。もし教会が神のみ座から受ける栄光を放散しないなら、どの教会も光を持つことはできない。」（神の驚くべき恵み 95）

b. なぜ、多くの人々は真の光に対して目を閉じ、自分自身の火花の中を歩むことを好むのですか（イザヤ 50:11; ヨハネ 3:19–21）。

「聖書の真理、すなわちキリストの宗教は、道徳的不純という強い風潮にさからって戦う。今日、人々の心の中の偏見は、キリストの時代よりも強い。キリストは人々の期待を実現されなかった。主の生活は彼らの罪にとって一つの譴責であったので、彼らは主をこばんだ。そのようにいまも、神のみことばの真理は人々の習慣や生来の傾向と調和しないので、幾千の人々がその光をこばむ。」（各時代の希望下巻 26）

c. 供えのパンはだれを指し示していましたか（出エジプト記 25:30; ヨハネ 6:48–51）。

「マナと供えのパンは、共に、われわれのために常に神の御前におられる生きたパンであられるキリストを示していた。」（人類のあけぼの上巻 418）

d. （七人の女によって象徴されている）多くの人気ある教会は、どのような意味において、「自分のパン」を食べることを好むのですか（イザヤ 4:1）。彼らがキリストから受けたいと望む唯一のものは、何ですか。

「宗教を公言する非常に多くの人の道に影を落としているのは、宗教の欠如である。クリスチャンとして通用しているが、その名に値しない人々がいる。彼らにはクリスチャン品性がない。彼らのキリスト教がテストにさらされるとき、その虚偽はあまりにも明らかである。真の宗教は日々のふるまいのうちに見られる。クリスチャンの生活は、他の人々に善を働き、神に栄光を帰す、熱心で私心のない働きによって特徴づけられている。」（教会への証 3 巻 377）

3. 香壇と契約の箱

a. 聖所の幕の前には何がありましたか（出エジプト記 30:1, 7, 8; 40:5; 黙示録 8:3, 4）。

「今日キリストの下に来るすべての人々は、このお方の功績が、自分たちの罪を悔い改め、許しと憐れみと恵みを受ける人々の祈りと混ぜ合わされる香であることを覚えているべきである。……謙遜な心は、恵みと平安と喜びの答えの帰ってくる祈りをささげる必要がある。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E．G．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］6 巻 1078）

b. どのような霊的態度は、主にとって芳しい香りというよりはむしろ、不快な煙ですか（イザヤ 65:5; ルカ 18:9–11）。

c. 至聖所の中の最も重要な対象物を挙げなさい（出エジプト記 31:18; 40:20）。

「この〔至聖所〕には、内も外も金でおおわれたアカシヤ材の箱があって、その上の周囲に金の飾り縁があった。それは、神ご自身がしるされた十誡の石の板を収めるために作られたものであった。十誡は神とイスラエルの間に立てられた契約の基盤であったことから、これは神の契約の箱と呼ばれた。」（人類のあけぼの上巻 410）

d. 心の礼拝者はみな、どこに神の律法を携えますか（エレミヤ 31:33）。

e. 神の律法（証）のほか、契約の箱には何が入っていましたか（民数記 17:10; 出エジプト記 16:33–35; ヘブル 9:4）。

「イスラエルを養うために天から降ってきたマナは、世に生命を与えるために、神のみもとからこられたおかたを象徴していた。」（同上 344）

「『レビの家のために出したアロンのつえは芽をふき……』この奇跡は、祭司職に関する問題を難なく解決した。……

モーセとアロンとは、神の権威のもとに語ったということが十分に証拠立てられた。」（同上 487）

4. 贖罪所とケルビム

a. 贖罪所を描写しなさい（出エジプト記 25:17–21）。

「この聖なる箱のふたは、贖罪所と呼ばれた。これは一つの金塊から作られ、その両端には金のケルビムが立っていた。これらの天使の一方の翼は高く伸ばされ、もう一方の翼は崇敬とけんそんをあらわして自分のからだをおおっていた（エゼキエル書 1:11 参照）。」（人類のあけぼの上巻 410）

b. 神の律法に向かって、敬虔に箱を見降ろす二人のケルビムは、何を象徴していましたか（詩篇 103:20; ヘブル 1:14）。

「互いに向かい合い、敬虔に箱を見下すこのケルビムの姿勢は、天の万軍が神の律法に対していだいている崇敬の念と、贖罪の計画に対する関心をあらわしていた。」（同上 410）

「天使の一方の翼は高くひろげられ、一方の翼は自分の姿をおおっていた。地上の聖所の櫃は、天の真の櫃の型だった。天の聖所では、櫃の両端にそれぞれ生ける天使が立っていて、一方の翼は高く伸ばして贖罪所をおお……（っ）ている。」（生き残る人々 179）

c. 契約の箱において、神のご品性はどのように明らかにされていますか（詩篇 85:10）。

「箱におさめられた神の律法は、義と審判の大原則であった。この律法は違反者に死を宣告した。だが、律法の上には贖罪所があり、そこに神の臨在があらわされ、また、そこから、贖罪によって、悔い改めた罪人にゆるしが与えられた。」（人類のあけぼの上巻 411）

5. 表された神のご臨在

a. シェキーナーとは何でしたか（出エジプト記 25:22）。わたしたちはこの聖所の光景全体をどのように描写することができますか。

「〔至聖所の中の〕箱の上の方の天使たちが立っている所に、非常に明るい栄光が輝いていて」（初代文集 91）

「贖罪所の上方には、神の臨在のあらわれであるシェキーナーがあった。神は、ケルビムの間からみこころをお知らせになった。神のお告げは時として、雲からの声によって大祭司に伝えられた。また、時として、承認もしくは受容をあらわすために光が右側の天使を照らし、不賛成もしくは拒否をあらわすために、影もしくは雲が左側の天使をおおうこともあった。……

幕屋の内部の光景の輝かしさは、どんな言葉をもってしても描写することができない。―金の燭台の光を反射する金張りの壁、きらびやかにししゅうした、天使の浮き出るたれ幕のまばゆい色合い、金色に輝く机と香の祭壇、そして第二のとばりのむこうには、聖なる箱と神秘的なケルビム、その上方の主の臨在が目に見える形であらわされる、聖なるシェキーナー。だが、このすべては人間の贖いのわざの中核である、天にある神の神殿の栄光をおぼろげに反映するものにすぎない。」（人類のあけぼの上巻 410， 411）

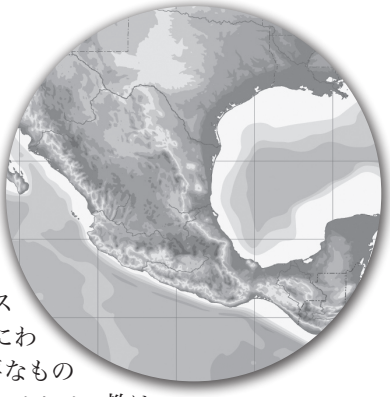
「神の栄光が両方のへやに満ちたために、祭司は職務を行うことができず、幕屋の入口にたたずんだまま居なければならないことがよくあった。聖所の中にあって、目には見えない贖罪所に向かって、信仰による祈りをささげている祭司は、天の聖所にある贖罪所の前におられるキリストに祈りをささげている神の民を象徴している。われわれは、仲保者であるキリストを肉眼で見ることはできないが、信仰の眼をもって贖罪所の前のキリストを見、キリストに祈りをささげ、確信をもってキリストの仲保の恩恵をわれわれのものとすることができる。」（生き残る人々 180）

個人的な復習問題

1. **聖所の二つの部屋を描写しなさい。**
2. **燭台と供えのパンの意味を説明しなさい。**
3. **金の香壇の霊的な意味は、何でしたか。**
4. **真のクリスチャンの心は、どのように契約の箱を反映しますか。**
5. **どのように神は折々、ご自分の聖なるみ旨を至聖所の中で明らかになさいましたか。**

第一安息日献金

メキシコ連合の特別プロジェクト



メキシコは 31 州と 1 連邦区から成っています。面積は 6,006 平方キロメートルの島々を含み、1,953,162 平方キロメートル、人口はおよそ 1 億 1200 万人です。50 以上の現地の言葉が話されていますが、スペイン語が公用語です。宗教は次のようにわかれています。一番の教会数を持つ主要なものがローマ・カトリック。エホバの証人とまたモルモン教は 100 万人の信者を主張しています。セブンスデー・アドベンチストは 60 万人を越え、そのほかの宗教の人数はそれより小さくなっています。

改革のメッセージがメキシコに伝えられたのは 1965 年でした。それ以来、神様の恵みにより働きは成長してきましたが、「永遠の福音」はさらに 12 州へと伝えられる必要があります。これを達成するために、わたしたちは次を計画しています。

- 医事伝道学校
- クリニック・エデン、もう一つの医療センター
- 出版施設

これらのプロジェクトを資金的に維持するために、わたしたちには収入が必要です。主の働きを拡張することができるためにここの文書伝道者たちが必要としている伝道のための材料が大いに不足しています。さらに、それは財源ともなります。わたしたちには健康や福音の主題について記事を書くことを手伝うことのできる人々がいますが、価格を手頃にしながら、なお利益が出るような金額に設定するために大量印刷をする資金が不足しています。この利益は上記の三つのプロジェクトに振り分ける計画です。

伝道学校があれば、わたしたちはもっと準備のできた働き人を、まだメッセージの伝えられていないそれぞれの州へ送ることができます。また文書伝道者たちは印刷物を通して、神のみ言葉を広めることができ、クリニック・エデンは、患者たちが福音を受けるのを助けるセンターとなることができます。わたしたちはこうして神がご自分の教会にお与えになった責任―わたしたちがどこにいようと輝く光となること―を果たすのです。

この緊急な訴えが至る所に伝えられ、この危機の時に、世が警告を受けますように。

さきだって、この価値あるみ事業のための皆さんの惜しみない献金に感謝いたします。

–メキシコ連合におけるあなたの兄弟姉妹–

庭

「あなたはまた幕屋の庭を造り」（出エジプト記 27:9）

「聖なる幕屋は、庭と呼ばれる広場に囲まれており、その庭には、青銅の柱につるされた亜麻のたれ布、すなわち、囲いが張りめぐらされていた。」（人類のあけぼの上巻 408）

推奨文献：　教会への証 4 巻 159
人類のあけぼの上巻 407, 408; 414, 415

日曜日　*2 月 27 日*

1．庭

a.　幕屋の周囲には、何が設けられましたか（出エジプト記 40:8，33）。

「この〔庭の屋外の空間〕の入口は東端にあった。そこは、……高価な材料で美しく作られた幕で閉ざされていた。」（人類のあけぼの上巻 408）．

b.　庭には、いくつの門がありましたか（レビ記 8:3，4）。わたしたちが父なる神のみ許に行くためには、いくつの門がありますか（ヨハネ 10:9；14:6）。

「わたしたちの霊的また道徳的性質の必要にこたえるすべての備えがなされてきた。……イエスはわたしたちの前に開かれた門をおいた、そしてだれもそれを閉めることはできないと仰せになる。わたしたちの前にある開かれた門から、キリストの恵みを通して、憐れみ深い光線が輝き出ている。」（神のむすこ娘たち 19）

c.　神の囲いの唯一の門は、いつもだれでしたか（ヨハネ 10:1–8）。

「キリストは神の囲いの門である。大昔から、神の子らはみなこの門を通ってはいって行った。……、また、イエスを通して、主の恵みという囲いの中につれてこられた。多くの人々が現れて、世の信仰の対象としてほかのものを示した。人々は、儀式や制度を作り出し、それによって義とされ、神とやわらいで、神の囲いにはいることを望んでいる。しかしただ一つの門は、キリストである。」（各時代の希望中巻 274）

2. 道は開かれている

a. どの事実が、天の聖所との関係において、この地上が「世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハネ 1:29）が犠牲として捧げられた外庭であることを指し示していますか（ヘブル 13:12, 13）。

「わたしたちの大祭司は門の外で苦しまれたときにご自身の犠牲の捧げ物を完成された。そのとき民の罪のための完全な贖罪がなされた。イエスはわたしたちの助け主、わたしたちの大祭司、わたしたちの仲保者であられる。であるから、わたしたちの現在の立場は、イスラエル人の立場とちょうど同様に、外庭に立ち、祝福された望み、主なる救い主イエス・キリストの栄光に満ちた出現を待ち望んでいるのである。……キリストの死、すなわち世の罪のためにほふられた小羊において、型は本体とあった。大いなる大祭司は唯一価値のある犠牲を捧げられた。」（彼を知るために 73）

b. どのように天の聖所への道は、わたしたちの前に開かれましたか（ヘブル 9:8; 10:16–22）。神のあわれみ深い備えに対するわたしたちの応答は、どうあるべきですか。

「キリストが最後の呼吸をした瞬間、神殿の中で、強く重い布が上から下まで見えない手によって裂かれるのを見た目撃者たちがいた。この行為は天の宇宙にとって、また罪に堕落した世にとって、新しく生きた道が堕落した人類のために開かれたことを意味していた。」（信仰によってわたしは生きる 201）

「十字架がなくては、人は御父と何のつながりもない。そこにわたしたちのすべての希望がかかっている。それを見て、クリスチャンは、勝利者として歩を進めることができる。なぜなら、そこから救い主の愛の光が流れているからである。罪人が十字架の下にたどり着き、自分を救うために死なれたお方を見上げるとき、彼は満ちみちた歓喜をもって喜ぶことができる。なぜなら、自分の罪が許されているからである。十字架の下にひざまずくとき、彼は人が到達し得る最も高い所に到達しているのである。神の栄光の知識の光は、イエス・キリストのみ顔にあらわされている。そして許しの言葉が語られる。生きよ、ああ、罪人であるあなたは、生きよ。あなたの悔い改めは受け入れられる。なぜなら、わたしは贖い代を見出したからである。……

カルバリーの十字架に栄光を帰すことはまたわたしたちの特権であり、わたしたちのためにご自分を与えて下さったお方に自分自身を完全にお捧げすることはわたしたちの特権である。そのとき、このお方のみ顔からわたしたちの顔に輝く愛の光をもって、わたしたちは闇の中にいる人々にそれを反射するために出ていくのである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1902 年 4 月 29 日）

3. 青銅の祭壇

a. 庭の入口の近くに、何がありましたか（出エジプト記 40:29）。

「庭の中には、入口に近いところに、燔祭のための青銅の祭壇があった。この祭壇の上で、すべての犠牲は火に焼かれて主にささげられ、その角には贖いの血が注がれた。」（人類のあけぼの上巻 408）

b. 犠牲の祭壇には、階段がなかったという事実によって、何が示唆されていましたか（出エジプト記 20:26）。霊的な意味において、わたしたちはこれを個人的にどのようにあてはめることができますか（黙示録 3:17）。

「あなたは必要としている。ああ、この時に、あなたが富んだ者となるために愛と信仰の金を買うこと、あなたが覆われて神のさばきの時にあなたの裸の恥があらわれることのないように、キリストの義の白い衣を買うことを非常に必要としている。」（原稿ﾘﾘｰｽ 20 巻 98）

c. 神のみ前に来る道を説明しなさい―それは「階段なく」直接でしたか、あるいは祭司や聖徒のような仲保者を介してでしたか（ヨハネ 6:37; テモテ第一 2:5）。

「あなたの唯一の希望―キリストを通して神のみ許に来るという尊い特権―をしっかりとつかみなさい。あなたの無力な魂を自分の仲保者にあずけなさい。このお方のうちに、またこのお方を通して、しかもこのお方だけによって、あなたは神の許へ行くことができる。なされた備えの他に贖罪をなす効力はない。人間の儀式や方法は役に立たない。キリスト以外のものはすべて無に等しい。

聖霊があなたの希望である。あなたがカルバリーの十字架を掲げるとき、それがあなたを掲げる。イエスの後を、このお方の献身と自己否定のみ足の後に従って十字架を担うとき―ただこうしてのみ、あなたは救いを見出すことができる。生ける神のみ言葉があなたの導きであり相談者である。イエス・キリストは至聖所へ至る道―幕のない道であられる。罪人は低くされ、救い主がすべてのすべてとして高められる。これがあなたの避け所である。」（同上 2 巻 24, 25）

「もしわたしたちがみ言葉を行う者であれば、わたしたちは信仰の完全な確信をもって神のみ許に来て、次のように言うことができる、『どうか、あなたのしもべに言われたみ言葉を思い出してください。あなたはわたしにそれを望ませられました』（詩篇 119:49）。……

「召しはわずかな人のためではなく、すべての人のためである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1898 年 12 月 6 日）

4. 洗盤

a. 祭壇と幕屋の戸の間には何がありましか（出エジプト記 38:8）。

「祭壇と幕屋の戸口との間には、イスラエルの女たちが心からささげた鏡によって造られた、同じく青銅の洗盤があった。祭司たちは聖所にはいって行くときや、主に燔祭をささげるために祭壇に近づいたりするときには、いつもこの洗盤で手と足を洗わなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 408）

b. 女たちが神にお捧げした鏡からできた青銅の洗盤から、わたしたちはどのような様々な教訓を学ぶべきですか（コリント第二 13:5, 6; ヤコブ 1:21–25）。

「誇りと虚栄がいたるところにみられる。鏡を見て自分で自分に感嘆する気はあっても、偉大な道徳的鏡である神の律法を見ようとする気はほとんどない。……衣服を偶像視することは、品性のけんそんさと柔和と美しさを全く滅ぼしてしまう。瞑想と心の吟味と、祈りのうちに神のみことばを学ぶことに専念すべき貴重な時間がつぶれてしまう。」（青年への使命 360）

「神の律法が義の標準である。わたしたちが自分たちの品性の欠点を識別するためにのぞきこむ鏡である。わたしたちが鏡を見るとき、それはわたしたちの衣服や人となりの欠点を明らかにする。しかし、それは不完全さを一つとして取り除くことはない。これらはわたしたちが自ら矯正しなければならない。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1887 年 5 月 5 日）

「もしわたしたちが通りに出ていって、衣服に泥がつき、それから家に戻って、鏡の前に立って自分たちの汚い衣服を見ながら、鏡に向かって、『わたしの汚れを清めなさい』と言ったら、どうであろうか。それはわたしたちをその汚れから清めるであろうか。それは鏡を見る役目ではない。それができるのはただ、わたしたちの衣が汚れていることを明らかにすることである。それは汚れを取り去ることはできない。

神の律法も同様である。それはわたしたちの品性の欠点を指し示す。それはわたしたちを罪人として宣告する。しかし、それは違反者に許しを提供することはない。それは罪人をその罪から救うことはできない。しかし、神は備えをなして下さった。ヨハネは『もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる』と言っている（ヨハネ第一 2:1）。であるから、わたしたちはこのお方のみ許へ行き、そこでイエスの品性を見出し、このお方のご品性の義が違反者を救う―もしわたしたちが自分の側でできることをみな果たすならば。」（説教と講和 1 巻 15）

木曜日 3月3日

5. 神の承認の特別な現れ

a. 幕屋の建物がその庭と共に完成したとき、何がありましたか（出エジプト記 40:34, 35）。

「大ぜいのイスラエルの民は聖なる建物を見ようとして、非常な興味をもって群がってきた。彼らが、敬虔な満ち足りた気持ちでこれに見入っているときに、雲の柱が幕屋の上にたなびき、その上にくだり、これを包んだ。……ここに神の威光があらわされ、しばらくの間、モーセも中にはいることができなかった。民は、彼らの手のわざが受け入れられたしるしを感慨深く見つめていた。人々は、歓喜の声を上げたりはしなかった。厳粛な畏怖がすべての者を包んでいた。だが、心の喜びは涙となってあふれ、神が降りてこられて、自分たちと共にお住みになることの感謝が、低くはあったが熱のこもったささやきとなったのである。」（人類のあけぼの上巻 411, 412）

b. 喜びとうれしさと共にどの確証が、わたしたちの心を満たすべきですか（ローマ 8:31; ヘブル 13:6）。

「当時、神のしもべの支持者であられたおかたは、各時代の神の民のよりどころであられたのである。神の民はすべての危機において、「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようかと、確信をもって言うことができるのである（ローマ 8:31）。どんなに、サタンとその手下たちが、どんなに狡猾に陰謀をめぐらしても、神はそれらを看破して、彼らの計画をみな挫折させられる。今日信仰はネヘミヤが答えたように、「われわれの神はわれわれのために戦われます」と答えるのである(ネヘミヤ記4:20)。神が働いておられるのであるから、どんな人も、その最後の勝利を妨害することはできない。」（国と指導者下巻 246）

金曜日 3月4日

個人的な復習問題

1. **庭の門はだれを象徴していましたか。**
2. **どのように天の聖所の門はわたしたちの前に開かれましたか。**
3. **青銅の祭壇は庭の入口の近くにあったという事実によって、何が示唆されていますか。**
4. **洗盤が鏡から造られたことを考えるとき、何を学ぶことができますか。**
5. **どの確証が、わたしたちの心を喜びと共に満たすべきですか。**

祭司職

「あなたはレビびとに、あかしの幕屋……を管理させなさい。」（民数記 1:50）

「神の指示によって、レビの部族が聖所の奉仕のために選ばれた。」（信仰によってわたしは生きる 195）

推奨文献：　人類のあけぼの 412, 413

日曜日　*3月6日*

1．神が選ばれる

a.　聖所の管理の責任はどの部族が負いましたか（民数記 1:50–53）。神はなぜ、ルベンをさけて、レビをご自分の長子として選ばれたのですか（創世記 49:3, 4）。

「ずっと初期のころには、すべての男子が自分の家族の祭司であった。アブラハムの時代には、祭司職は長男の生まれながらの権利とみなされていた。しかし、主はここで聖所の務めのために、全イスラエルの長子の代わりに、レビ族をお受け入れになった。神は、この特別の栄誉を与えることによって、彼らが忠実に主に仕えたことと、イスラエルが金の小牛を拝んで背信したときに、主のさばきを忠実に果たした彼らの忠誠を認めたことをあらわされた。」（人類のあけぼの上巻 412）

「〔ヤコブ〕は長子ルベンがどんな立場に立つはずであったかを描写した。しかし、ルベンはエダルにおける悲しむべき罪のために長子の祝福を受けることができなかった。」（同上 264）

b.　祭司職に選ばれたのはレビのどの家族ですか（出エジプト記 28:1; 民数記 18:1, 6, 7）。

「祭司職は、アロンの家だけにかぎられていた。アロンとその子らだけが主の前で仕えることをゆるされた。レビ族のその他の者たちには幕屋とその備品に関する責任がゆだねられた。そして、彼らは奉仕にたずさわる祭司に付き添うことはできたが、いけにえをささげたり、香をたいたり、おおいをかぶせていない清い備品を見たりすることは許されなかった。」（同上 412）

2. 祭司服 – I

a. 祭司服の主な部分を述べなさい（出エジプト記 28:2–4）。

「大祭司の衣服は、その高い地位にふさわしく、高価な材料で美しく作られていた。一般の祭司の着る亜麻の衣服に加えて、彼は同じく一つ織りの青衣を着用した。そのすそには、金の鈴と、青糸、紫糸、緋糸で作ったざくろの装飾がほどこしてあった。」（人類のあけぼの上巻 413）

b. エポデ： 出エジプト記 28:6, 9, 10

「〔青衣〕の上に金糸、青糸、紫糸、緋糸、白糸で織った短衣エポデを着用した。これは美しく作られた同色の帯でゆわえつけられていた。エポデにはそでがなく、金ししゅうの肩当てには、イスラエル十二の部族の名をしるした二個のしまめのうがはめ込まれていた。」（同上 413）

c. 胸当：出エジプト記 28:29

「エポデの上には、祭司服の中で最も神聖な胸当があった。これは、エポデと同じ材料でできていた。形は一指当たり平方の正方形で、金の環に結びつけられた青ひもで肩からつるされていた。周囲は神の都の十二の土台を形成するのと同じ、さまざまな宝石で縁取られていた。縁の内側には金にはめ込まれた十二の宝石が四列に配され、これには肩当てと同じく十二部族の名が彫られていた。主は、「アロンが聖所にはいる時は、さばきの胸当にあるイスラエルの子たちの名をその胸に置き、主の前に常に覚えとしなければならない」と命じられた（出エジプト記 28:29）。そのように、罪人のために父の前で、ご自分の血による嘆願をなさる偉大なる大祭司キリストも、ご自分の心に、すべて悔い改めた信じる魂の名をしるしておられる。」（同上 413）

3. 祭司服 – II

a. ウリムとトンミムとは、何ですか（出エジプト記 28:30; レビ記 8:8）。

「胸当の右と左に、ひときわ目だって輝く大きな宝石がはめられていた。困難な問題が裁判官の前に持ち出されて解釈できないときには、その問題は祭司のところへもってこられた。祭司が神にたずねると、神はこれにお答えになった。神が賛成し、民に成功をあたえたいとお思いになれば、右側の宝石の上に光と栄光の輪が特にきわだって見られた。神が賛成なさらないときには、左側の宝石が、かすみがかかったようにくもってみえた。戦いに出ることについて神にたずねた場合、右側の宝石に光の輪があらわれたら、行け、そして栄えよという意味だった。左側の石にくもりのかげがさしたら、行ってはいけない、栄えることはないという意味だった。」（生き残る人々 212, 213）

b. 大祭司の帽子を描写しなさい（出エジプト記 28:39; 39:28）。

「大祭司の帽子は白亜麻のかぶりものであったが、それには『主に聖なるもの』としるした金の板が青ひもで結ばれていた。」（人類のあけぼの上巻 414）

c. 普通の祭司衣服を描写しなさい（レビ記 6:10）。

「普通の祭司の衣服は白亜麻で、一つ織りになっていた。すそは足の近くまでたれ下がり、腰は青糸、紫糸、赤糸でししゅうをほどこした白亜麻の帯で結ばれていた。このほかに亜麻布のかぶり物、すなわち帽子がついて、彼らの服装はそろったのである。モーセは、燃えるしばのところで、彼の立っている場所は聖であるからくつを脱ぐようにと命じられた。そのように、祭司も足にくつをつけたまま聖所にはいることはできなかった。」（同上 412）

d. 祭司たちの衣服や彼らの動作は民にどのような影響を及ぼしましたか。

「祭司の衣服と動作のすべては、それを見る者に、神の神聖なこと、その礼拝が清いものであること神の前に来る者には純潔が要求されることなどを、深く感銘させるものでなければならなかった。」（同上 414）

4. ふさわしい覆いと敬神の態度

a. 主の前に出るとき、祭司たちは、いかに注意深く自分たちの裸を覆いましたか（出エジプト記 20:26）。御使たちはどうですか（イザヤ 6:1, 2）。

b. 預言者イザヤは、天の聖所の御座の上に座しておられる神の幻を見たとき、自分自身のことをどのように思いましたか（イザヤ 6:5）。わたしたちは心の目で見るこの経験を、どのように自分たちにあてはめるべきですか。

「イザヤは他の人々の罪を非難してきた。しかし、今彼は自分自身がこれまで他の人々に申し渡してきた同じ有罪宣告にさらされていることを見る。彼は自分の神の礼拝において、冷たく命のない儀式に満足してきた。彼は主についての幻が自分に与えられるまで、そのことを知らなかった。彼が聖所の神聖さと壮麗さを見たとき、自分の知恵とタラントはいかに小さく見えたことであろう！彼はいかに価値がなく、聖なる奉仕にいかにふさわしくなかったことであろう！……

イザヤに示された幻は、終わりの時代の神の民の状態を表している。彼らは信仰によって、天の聖所で行われている働きを見る特権が与えられている。『そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた』（黙示録 11:19）。彼らが信仰によって至聖所の中を見、天の聖所におけるキリストの働きを見るとき、彼らは自分たちが汚れたくちびるの民―そのくちびるがむなしいことを語り、そのタラントが聖化されず、神の栄光のために用いられてこなかった民―であることを自覚する。彼らは自分自身の弱さと無価値さを、キリストの栄光に満ちたご品性の純潔と麗しさと比較して、絶望するかもしれない。しかし、もし彼らがイザヤのように主が心に与えようと意図される印象を受けるならば、もし彼らが自分たちの魂を神のみ前にへりくだらせるなら、彼らには望みがある。御座の上には約束の虹があり、イザヤのためになされた働きが彼らのうちに行なわれるのである。神は悔いた心からなされる嘆願に答えて下さる。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1896 年 12 月 22 日）

「イザヤは神の栄光のすばらしい幻を得た。彼は神のみ力の現れを見た。そしてその威厳を見た後、行ってしかるべき働きをするようにとのメッセージが彼に与えられた。彼はその働きにまったくふさわしくないことを感じた。何が彼に自らを無価値だと感じさせたのであろうか。彼は神の栄光の幻を見る前に自らを無価値だと考えたであろうか。否、彼は自分が神のみ前に義なる状態にあると想像していた。しかし、万軍の主の栄光が彼に表されたとき、彼が神の言い表しがたい威厳を眺めたときに、彼は『わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者…だから』と言ったのであった（イザヤ 6:5）。」（同上 1889 年 6 月 4 日）

木曜日

3月10日

5. イザヤの使命―そしてわたしたちの使命

a. 今日イザヤ 6 章の幻は、どのように当てはまりますか（ローマ 15:4）。わたしたちの望みは、どこに錨をおろすべきですか（ヘブル 6:11, 19 （ヘブル 9:3 参照））。

「人間がその弱さと欠陥をもって、神聖な聖潔と光と栄光の完全さと対照的に引き合いに出されたとき、〔預言者イザヤ〕は、まったく無能で無価値に感じた。いかにして彼は行って民にエホバの、すなわち高く掲げられたお方、そのすそが宮を満たしているお方の聖なるご要求を語ることができよう。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E．G．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］4 巻 1140）

b. へりくだったイザヤに与えられたどのような慰めの確証が、今日すべての信徒にも同様に与えられますか（イザヤ 6:5–7）。

「あなたの唇が神聖な祭壇からの燃えている炭に触れていただくようにと祈りなさい。あなたがただ純潔でキリストのような言葉だけを語ることができるように、またあなたが厳しく、無分別に語ることは罪であることを認めることができるように祈りなさい。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1904 年 1 月 14 日）

「あなたが神のみ声を聞くためにいるべきところに自分の身を置くとき、毎日このお方の許に来て、『しもべは聞きます。主よ、お話しください』『主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか』言うのである（サムエル上 3:9; 使徒行伝 9:6）。そのとき、主は魂のための重荷をあなたに与え、あなたのくちびるに、イザヤのくちびるになさったのと同じように、ご自分の祭壇から燃えている炭をもって触れて下さる。」（世界総会日誌 1891 年 3 月 20 日）

金曜日

3月11日

個人的な復習問題

1. **十二部族のうち、どの部族が聖所の責任を与えられましたか。なぜですか。**
2. **大祭司の衣服を描写しなさい。**
3. **普通の祭司の衣服を描写し、彼らの衣服や、特に彼らの動作が民に及ぼした影響を説明しなさい。**
4. **主のみ前の祭司たち、また御使たちの敬神的な態度と適切な覆いから、わたしたちは何を学ぶべきですか。**
5. **イザヤ（6:1–7）の幻は、とくに自己義のラオデキヤ時代に生きているわたしたちにとって、どのような意味において当てはまりますか。**

聖所の奉仕における福音

「〔レビの部族は〕……全会衆のために、……幕屋の働きをしなければならない。」（民数記 3:7）

「聖所そのもののみならず、祭司の奉仕も、『天にある聖所のひな型と影とに仕えてい』たのである（ヘブル 8:5）。」（信仰によってわたしは生きる 195）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 414–423

日曜日　*3 月 13 日*

1．献納

a.　聖所と祭司の献納を述べなさい（レビ記 8:10–12, 30, 33）。この厳粛な手続きからわたしたちは何を学ぶべきですか。

「み腕をもって世界を動かし、わたしたちを支え、わたしたちに命と健康をお与えになる天の神は、ご自分の前で務めをなす人々の衣服によって、ご自分が誉れを受けることも、侮辱を受けることもあるという証拠をわたしたちにお与えになった。このお方はご自分の奉仕に関わるすべてのことに関してモーセに特別な指示をお与えになった。このお方は彼らの家の配置に関することまで指示をお与えになり、ご自分の奉仕において務めをなすべき人々が着るべき衣服も具体的に指定なさった。彼らは万事につけ秩序を維持し、特別に清潔を守らなければならなかった。」（教会への証 2 巻 610, 611）

b.　聖所における奉仕を説明しなさい。

「聖所の務めは、二つの部分から成っていた。すなわち、日ごとの奉仕と年ごとの奉仕とである。日ごとの奉仕は幕屋の庭の燔祭の祭壇と聖所とで行なわれ、年ごとの奉仕は至聖所で行なわれた。」（人類のあけぼの上巻 414）

「大祭司は一年に一度、聖所を清めるために、至聖所において贖いの特別な働きを行なった。」（各時代の大争闘下巻 131）

2. 日ごとの奉仕

a. 国家のために行う通常の日ごとの奉仕を描写しなさい（出エジプト記 29:38–42; 民数記 28:3–6）。

「日ごとの務めは、朝夕の燔祭、金の祭壇における香の供え物、及び個人個人の罪のための特別な供え物から成っていた。……

朝に夕に一才の小羊が適当な素祭と共に祭壇で焼かれ、……キリストのあがないの血に、彼らが絶えず依存していることが象徴されていた。」（人類のあけぼの上巻 414, 415）

b. 祭司は犠牲にされるべき動物をどのように選びましたか（出エジプト記 12:5）。「傷のない」捧げ物によって、だれが象徴されていましたか（ペテロ第一 1:19）。

「祭司たちは、犠牲としてささげられる動物をみなよく調べ、傷があるものは、ことごとく退けなければならなかった。『傷のない』供え物だけが、『きずも、しみもない小羊』（ペテロ第一 1:19）として、ご自身をおささげになる主の完全な純潔を象徴するものとなることができた（ペテロ第一 1:19）。」（同上 415）

c. そのほか、完全な捧げ物から、わたしたちは何を考えるべきですか（ローマ 12:1）。

「われわれは自らを神の礼拝のためにささげなければならない。そして、この供え物をできるだけ完全に近いものとするように努めるべきである。神は、われわれのささげ得る最善のものでなければお喜びにならないのである。心から神を愛する者は、生涯の最上の奉仕を神にささげたいと望み、神のみこころを行なう能力を増進する律法に、自分たちの持っているあらゆる力を調和させようと絶えずつとめるのである。」（同上 415）

「わたしたちのために払われた犠牲の自覚が、絶えずわたしたちの思いに生き生きと保たれ、絶えずわたしたちの思想や計画に影響を及ぼすべきである。キリストが確かにわたしたちのうちで十字架につけられたお方となるべきである。……

わたしたちのためになんという代価が支払われたことであろう！十字架を見なさい。そしてそこにあげられている犠牲なるお方を見なさい。残酷な釘で打ちつけられた、その両手を見なさい。釘で木に固定されたこのお方の両足を見なさい。キリストはご自身の体にわたしたちの罪を負われた。この苦しみ、この苦悩は、あなたの贖いの代価である。」（教会への証 6 巻 479）

3. 個人の捧げ物

a. 昔のヘブルの制度では、個人が罪を犯したとき、その人は何をすることが要求されましたか（レビ記 4:2, 3, 22, 23, 27–30）。

「日ごとの務めのうちで最も重要な部分は、個人個人のために行なわれた務めであった。悔い改めた罪人は供え物を幕屋の戸口にたずさえ、このいけにえに手を置いて罪を告白し、こうして象徴的にその罪を彼自身から無垢の犠牲の上に移し変えた。それから動物は、彼の手で殺された。祭司は、血を聖所に運んで、この罪人の犯した律法を入れた箱の前方にたれているとばりの前に注いだ。この儀式によって、罪は血によって象徴的に聖所に移された。」（人類のあけぼの上巻 418）

b. 五種類の捧げ物を特定しなさい。これらのことから、わたしたちは何を熟考すべきですか。

- 燔祭 （レビ記 1:2， 3）
- 素祭 （レビ記 2:1–3）
- 酬恩祭 （レビ記 3:1， 2）
- 罪祭 （レビ記 4:2）
- 愆祭（レビ記 5:1–6）※ Trespass offerings 口語訳聖書では、5:15–19 参照

「毎日、悔い改めた罪人が幕屋の入り口に供え物を持って来て、手を犠牲の頭において自分の罪を告白し、こうして自分の罪を象徴的に自分自身から罪のない犠牲へと移した。それから動物はほふられた。『血を流すことなしには』罪のゆるしはあり得ない（ヘブル 9:22）、と使徒は言っている。『肉の命は血にあるからである』（レビ記 17:11）。破られた神の律法は、罪人の生命を要求した。罪人の失われた生命を表わす血、すなわち犠牲が彼の罪を負って流したものが、祭司によって聖所の中に運ばれ、幕の前に注がれた。幕の後ろには、罪人が犯したその律法を入れた箱があった。」（各時代の大争闘下巻 131）

「あなたは罪を憎まないのであろうか、そしてそのはなはだしい罪深さを自覚できるようにとこの上なく熱心に祈らないのであろうか。あなたは天の大君、神の御子の死をもたらしたものを憎むであろうか。神が完全な憎しみをもって憎まれるものが一つあるという事実をつねに心に留めていなさい。そしてそれは罪なのである。」（原稿ﾘﾘｰｽ 14 巻 73）

4. 香の捧げ物

a. 香の捧げ物を述べなさい（出エジプト記 30:1, 6–8; 40:5）。

「祭司は、日ごとの務めにおける他のいかなる行為よりも、香をささげるときに、神の御前に一番近づいたのである。聖所の内部のとばりは建物の上部にまで及んでいなかったので、贖罪所の上にあらわれた神の栄光は、第一の部屋からも部分的に見ることができた。祭司は、主の前に香をささげながら、契約の箱のほうを見た。香の煙が立ちのぼるとき、神の栄光は贖罪所の上にくだり、至聖所に満ちた。そして、それは両方の部屋にまで満ちて、祭司が幕屋の戸口にまで退かなければならないことがよくあった。」（人類のあけぼの下巻 415, 416）

b. 香の捧げ物は何を象徴していましたか（黙示録 8:3, 4）。これは、どのようにわたしたちの宗教経験を実際的な方法で祝福しますか。

「イスラエルの祈りと共にのぼった香は、キリストの功績と仲保、キリストの完全な義をあらわしている。これは信仰によって神の民のものとされる。そして、ただこれによってのみ、罪深い人間の礼拝が神に受け入れられる。至聖所のとばりの前には、絶えずとりなしの行なわれる祭壇があり、聖所の前には常供の贖いの祭壇があった。血と香によって、人間は神に近づくことができた―これらは、偉大な仲保者キリストをさし示す象徴であった。この仲保者を通して、罪人は主に近づくことができ、また、このキリストを通してはじめて、あわれみと救いが悔い改めて信じる魂に与えられるのである。」（同上 416）

「わたしたちが神のみ前に、キリストの功績に対するわたしたちの感謝を認めるとき、わたしたちのとりなしに香が与えられる。わたしたちが贖い主の功績の徳を通して神に近づくとき、キリストはわたしたちをご自分のそば近くに置き、ご自分の人間の腕でわたしたちを抱き、その一方では神のみ腕をもって無限のお方のみ座をつかんでおられる。このお方は、わたしたちが嘆願するよう勇気づけるために、ご自分の功績を芳しい香として、わたしたちの手のうちにある香炉に入れて下さる。このお方はわたしたちの祈りを聞き、答えて下さると約束しておられる。

しかり、キリストは人と神の間の祈りの媒介となって下さった。このお方はまた、神と人の間の祝福の媒介となって下さった。このお方は神性と人性を一つにして下さった。人は自分自身の魂の救いのために、このお方と協力しなければならない。そしてそれから、死につつある人々を救うために、熱心で辛抱強い努力をなさなければならない。」（教会への証 8 巻 178）

木曜日 *3月17日*

5. 心を探る時

a. 朝夕の日ごとの犠牲と香の捧げ物の時間に、集まった礼拝者たちは、何をしましたか（ルカ 1:10）。

「祭司が朝夕、香の時間に聖所にはいるとき、日ごとのいけにえは外の庭の祭壇にささげられる準備ができていた。これは、幕屋に集まった礼拝者たちが、非常な関心を示すときであった。彼らは、祭司の務めを通じて神の前に出るに先だって、まじめに心をさぐり、罪を告白しなければならなかった。彼らは、顔を聖所に向けて心を合わせ、黙祷をささげた。こうして、彼らの祈願が香の煙と共に立ちのぼった。そして、彼らは信仰によって贖罪の犠牲に予表された約束の救い主の功績にすがった。朝夕のいけにえをささげるために定められた時間は、清い時とみなされた。やがて、ユダヤ民族全体は、その時間を所定の礼拝の時間として守るようになった。」（人類のあけぼの上巻 416）

b. わたしたちはどのように、敬神的なユダヤ人―とくに主の晩餐にあずかる前―の礼拝を模倣すべきですか（コリント第二 13:5， 6； コリント第一 11:28）。

「この〔ユダヤ人の犠牲の時間の〕習慣はキリスト者にとって、朝夕の祈りの模範である。神は、礼拝の精神のない単なる儀式をきらわれる。しかし、神を愛し、朝に夕に頭をたれて犯した罪のゆるしを求め、必要な祝福を願う者たちを大きな喜びをもってごらんになる。」（同上 418）

c. 今日わたしたちの主要な関心事は何であるべきですか（ローマ 13:11–14）。

金曜日 *3月18日*

個人的な復習問題

1. 聖所の奉仕を描写しなさい。
2. 「傷のない」捧げ物とは、どういう意味ですか。
3. 聖所における日ごとの奉仕の主要な部分を説明しなさい。
4. 香の捧げ物は、何を象徴していましたか。
5. 朝夕の香から、わたしたちはどの教訓を学ぶべきですか。

第 13 課　　安息日　2011 年 3 月 26 日

キリストの先在

「父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。」（ヨハネ 17:5）

「キリストは、永遠の昔から父と共に持っておられた栄光をお受けになった。」（患難から栄光へ上巻 34）

推奨文献：　伝道　615, 616.
セレクテッド・メッセージ 1 巻 247
患難から栄光へ上巻 27–28

日曜日　*3 月 20 日*

1．彼は万物の前におられた

a.　聖書は、キリストがベツレヘムでの誕生以前には存在しなかったという主張が誤りであることを、どのように証明していますか（ヨハネ 8:58;　17:5,　24）。

「神のみ言葉は、この地上におられたときのキリストの人性について述べている。それはまた、このお方の先在性に関しても明確に述べている。言は神として、すなわち御父と結合し、一つであられるとこしえの神の御子として存在しておられた。」（彼を掲げよ 16）

b.　万物の創造主はだれですか（ヨハネ 1:1–3; コロサイ 1:13–17;　ヘブル 1:2, 8–10）。

「もしキリストが万物を造られたのであれば、この方は万物よりも前に存在しておられたのである。このことに関して語られたみ言葉は、はっきりとしており、だれも疑いのうちに取り残される必要はない。キリストは本質において、また最高の意味において神であられた。このお方はとこしえの昔から神と共におられた。万物の上にいます神は、永遠にほむべきかな。」（同上）

「キリストは先在し、自存する神の御子であられる。……ご自分の先在性について語るとき、キリストは年月を数えることのできないほど昔に思いを遡（さかのぼ）らせる。このお方はご自分がとこしえのみ神と親しい交わりのうちになかった時は、一度もなかったとわたしたちに保証しておられる。」（信仰によってわたしは生きる　46）

2. このお方はエジプトから救出を成し遂げられた

a. キリストはモーセとどのような深い感化力をもった関係をもっておられましたか（出エジプト記 3:2–8; ヘブル 11:24–27）。

「神がモーセにあらわれた燃える柴は、キリストを表していた。この光景には生ける真理がある。憐れみのうちに神は、ご自分の民をエジプトのくびきから救出なさろうとしていた。そしてこのお方はモーセにあらわれ、彼が神の民の目に見える指導者として選ばれたことをお告げになった。……

始めから終りまでご覧になるお方は、ご自分の僕を見守り、保護された。神はモーセをそのすべての願いがかなえられる贅沢な宮廷から、もっと個人的な学校へと移された。ここで主はモーセと交わることがおできになった。そして彼が荒野の困難と試練と危険を知ることができるように教育なさった。主は彼が神の民の羊飼いにふさわしくなることができるように、世話をすべき羊を彼にお与えになった。」（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1900 年 12 月 13 日）

b. モーセが道徳律を受け取った御使（出エジプト記 20:3–17）は、だれでしたか（マラキ 3:1; 使徒行伝 7:37, 38）。

「キリストは、荒野におけるヘブル人の指導者であられた。彼は、エホバとも呼ばれた天使なる神であって、雲の柱に包まれて、軍勢の前に進まれた。ただそれだけでなく、イスラエルに律法を与えられたのも彼であった。キリストは、シナイの荘厳な栄光の中から、すべての人に父なる神の十誡を宣言された。石の板に刻まれた律法をモーセに与えたのも彼であった。」（人類のあけぼの上巻 434, 435）

「律法が語られたとき、天地の創造主であられる主は、山の上の火と煙の中に包まれて、ご自分の御子の傍らに立っておられた。律法が初めて与えられたのは、ここではなかった。それはエジプトの偶像礼拝と交わることにより考えが混乱させられていたイスラエルの子らが、その条件を思い起こされ、エホバの真の礼拝を構成しているものが何かを理解できるために宣布されたのであった。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［Ｅ．Ｇ．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］1 巻 1103, 1104）

「シナイの山上でキリストによって語られた十の聖なる規則は、神のご品性の啓示であった。そしてこのお方が人類の嗣業全体に対して司法権をもっておられるという事実を世に知らしめたのであった。」（同上 1105）

3. このお方は荒野を通じてイスラエルを導かれた

a. 荒野を通じてイスラエルを導くのに、キリストはどのように関わられましたか（出エジプト記 23:20–23; 32:34; コリント第一 10:4）。

「雲の柱に包まれて、世の贖い主はイスラエルと交わりを持たれた。であるから、わたしたちは彼らにキリストはいなかったと言ってはならない。民が荒野で渇き、つぶやきと文句にふけったとき、わたしたちに対するキリストの存在が、彼らに対するキリストの存在であられたのである。すなわち、やさしい同情に満ちた救い主、彼らと神の間の仲保者であられた。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E．G．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］6 巻 1061）

b. 荒野の旅路の間、イスラエル人は、どのように試み、挑発しましたか（詩篇 78:18, 56; コリント第一 10:9）。

「モーセは岩を打ったが、しかし固い岩から水を流れさせたのは、彼のそばに立っておられたキリストだった。人々は渇きのあまり神を試みて、もし神がわれわれをここにつれ出されたのなら、神はどうしてパンと同じように水もあたえてくださらないのかと言った。このもしということばは罪悪的な不信をあらわしていた。モーセは、神が彼らの悪しき不平を罰したもうことをおそれた。主はご自分の民の信仰を試みられたのだが、彼らはその試練に耐えられなかった。彼らは食物と水をもとめてつぶやき、モーセについて不平を言った。彼らが不信だったので、神は、彼らの力がどこからあたえられるかを示すために、敵が彼らに戦いをいどむのをゆるされた。」（生き残る人々 157）

「神と等しいお方、このお方のひとり子が、イスラエルの救出において、御父のみ思いを実行された。神はモーセに、『わたし自身が一緒に行くであろう』と約束しておられた。そして、モーセが目に見える彼らの将として選ばれていた一方で、神の民の目に見えない指導者となるためにキリストをお与えになることによって、神はこの約束を果たされた。キリストはどこで野営するか指示を与えながら、荒野を通る旅路において、彼らを導かれた。モーセを通して、このお方はご自分のみ心とご目的を、百万を越える人々にお伝えになった。40 年間の荒野の放浪を通じ、このお方は彼らの指導者であられた。」（原稿ﾘﾘｰｽ 13 巻 185, 186）

4. このお方は預言者を通して語られた

a. 罪ととがのうちに「死んで」いた「獄に捕われている霊」に福音を宣布する代弁者であったノアとのキリストの関係を述べなさい（ペテロ第一 3:18–20; 4:6）。

「『神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである』（ヨハネ第一 3:8）。キリストはノアの時代にこの戦いに従事しておられた。いにしえの世界の住民たちに、警告と譴責と招きのメッセージのうちに語っておられたのはこのお方のみ声であった。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E．G．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］1巻 1088, 1089）

b. ダビデ（詩篇 22:7, 8; 40:6–8; 110:1）や、イザヤ（53章）、エレミヤ（31:33, 34）など、ほかの旧約聖書の預言者たちとのキリストの関係を述べなさい（ペテロ第一 1:9–11）。

「われわれの先祖が罪を犯して以来、神と人間の間には直接の交わりはなかった。父なる神は、この世界をキリストの手におゆだねになった。そして、神は、キリストの仲保の働きによって、人間を救い、神の律法の権威と神聖さを擁護なさるのである。堕落した人間と天との交わりは、すべてキリストを通じて行なわれた。われわれの先祖に贖罪の約束を与えたのは、神のみ子であった。家長たちにご自分をあらわされたのは、キリストであった。アダム、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてモーセなどは福音を理解した。彼らは人間の身代わりと保証であられるキリストによる救いを待望した。これらの古代の聖者たちは、この世界に人間となって来られることになっていた救い主と交わったのであった。彼らのなかにはキリストや天使たちと顔を合わせて話したものもあった。……

預言者によって人々に語られたのは、キリストであった。」（人類のあけぼの上巻 434, 435）

「礼典律は、キリストによって与えられた。……

イエスは、人間のかたちをとって地上に来られる前から、ご自分の民の光―世の光であられた。罪におおわれた世界の暗黒を貫いた最初の光は、キリストから来たものであった。地上の住民に注がれた天の輝かしい光はすべて彼から来たのである。キリストは贖罪の計画の中で、アルファであり、オメガであり―始めであり、終わりであられる。」（同上 435, 436）

木曜日 *3月24日*

5. このお方は道であり、真理であり、命である

a. シメオンが幼いイエスを自分の腕に抱いたときの彼の経験を述べなさい（ルカ 2:25–33）。

「シメオンは天の雰囲気の中で生活していた。義の太陽の明るい光線が彼に霊的な識別力を与えた。」（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E．G．ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ］5巻 1116）

b. なぜ他の祭司たちは、イエスを約束された救い主として認めることができなかったのですか（ヨハネ 9:40, 41）。

「神はご自分の栄光と力を、堕落した祭司職を通して、ご自分の民に表すことはおできにならなかった。神の民を恵まれるために定められた時が来ていた。ユダヤ人の信仰は、彼らが神から離れた結果として、曇ってきていた。民の指導者たちの多くは自分たち自身の伝統を持ちこみ、それらを神の戒めとして、ユダヤ人に強制していた。」（同上）

c. 聖書は神の御子をどのように命の源として描写していますか（ヨハネ 1:4; 10:10 （下句））。

d. キリストに従う忠実な者として死ぬすべての人に、どのような保証が与えられていますか（ヨハネ 11:25）。

「キリストのうちには、借りたものでもなければ、ほかから由来したものでもない、本来の生命がある。……キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。」（各時代の希望中巻 345， 346）

金曜日 *3月25日*

個人的な復習問題

1. キリストが万物を造られたことを述べている聖句を少なくとも一つ挙げなさい。
2. 「わたしたちに」与えられた十戒が（使徒行伝 7:38 参照）、キリストのみ手から受けたものであることを、どのように示すことができますか。
3. 荒野におけるキリストのイスラエル人の導きを述べなさい。
4. キリストが預言者たちを通して語られたことを示す例を挙げなさい。
5. なぜほんの数人しか、イエスを約束されたメシヤとして認めなかったのですか。

第一安息日献金

1月1日

トリエステ本部の改装のために

(4 ページ参照)

2月5日

世界災害救済基金

(30 ページ参照)

3月5日

メキシコ連合の特別プロジェクト

(51 ページ参照)